



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成21年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成20年12月	平成21年3月	前回調査比
茨城県	22.3	18.5	3.8
県北地域	23.7	16.2	7.5
県央地域	23.7	20.1	3.6
鹿行地域	20.3	14.0	6.3
県南地域	24.2	23.2	1.0
県西地域	19.4	19.1	0.3

《景気の先行き判断DI》

	平成20年12月	平成21年3月	前回調査比
茨城県	19.7	28.2	+8.5
県北地域	15.3	24.6	+9.3
県央地域	18.2	25.9	+7.7
鹿行地域	21.1	28.1	+7.0
県南地域	24.6	30.5	+5.9
県西地域	19.4	31.8	+12.4

平成21年4月

茨城県企画部統計課

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
(1) 景気の現状判断D I	3
(2) 景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断D I	5
(2) 景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断コメント	11
1 景気の現状判断コメント	11
2 景気の先行き判断コメント	21
3 その他の意見	31

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成21年3月31日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成21年3月調査の調査期間は平成21年3月1日から平成21年3月31日である。

5 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方向性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方向性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは18.5となった。「やや悪くなっている」の回答構成比は減少したものの、「悪くなっている」の回答構成比が増加し、「良くなっている」及び「やや良くなっている」の構成比が減少したため、12月調査分より3.8ポイント低下し、横這いを表す50を7期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来の最低値であり、2期連続で最低値を更新した。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

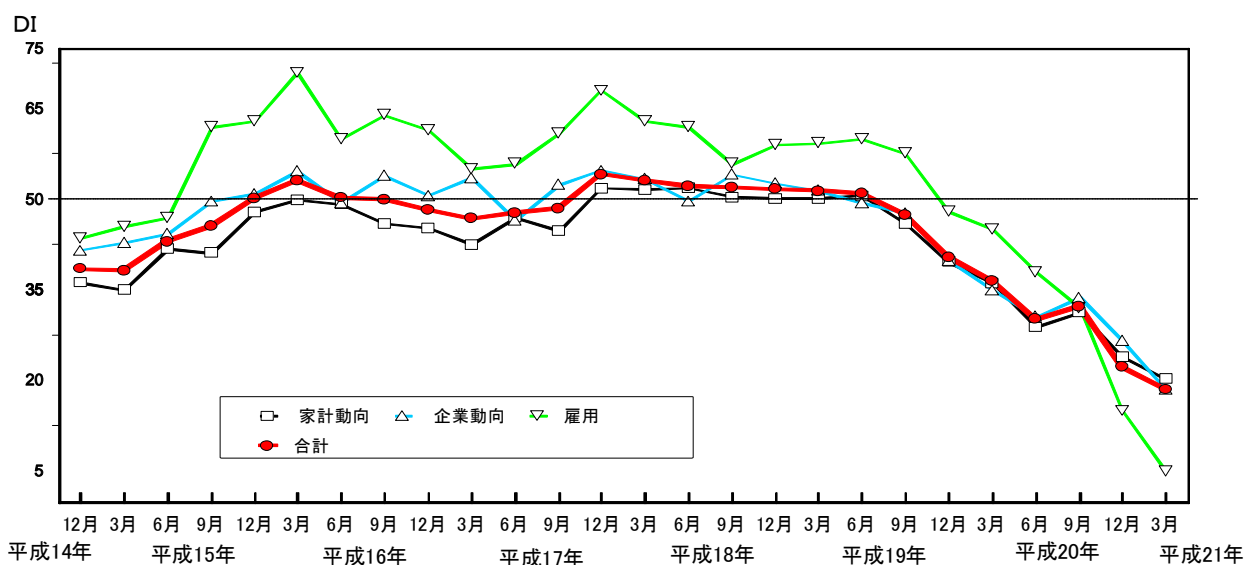
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
合計		36.5	30.2	32.2	22.3	18.5
家計動向関連		36.1	28.9	31.4	24.0	20.4
小売関連		35.8	27.7	28.5	19.9	17.5
飲食関連		32.1	26.2	30.0	25.0	26.4
サービス関連		35.8	29.7	34.5	28.4	21.3
住宅関連		50.0	38.9	30.6	16.7	22.2
企業動向関連		34.9	30.7	33.7	20.6	18.5
農林水産業		43.8	43.8	40.6	40.6	21.9
製造業		35.3	30.2	35.6	17.6	18.5
非製造業		32.0	28.2	29.0	20.2	17.7
雇用関連		45.0	38.0	32.0	15.0	5.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成20年 3月	0.3%	8.2%	40.1%	39.8%	11.6%
平成20年 6月	0.7%	4.4%	30.6%	43.5%	20.7%
平成20年 9月	0.7%	7.2%	29.3%	45.5%	17.2%
平成20年 12月	0.7%	5.1%	16.7%	37.5%	39.9%
平成21年 3月	0.4%	1.8%	15.1%	37.0%	45.8%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは28.2となった。「やや悪くなっている」及び「悪くなっている」の回答構成比が減少し、「良くなっている」及び「やや良くなっている」回答構成比が増加したため、12月調査分より8.5ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来の最低値であった前期に次いで2番目に低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

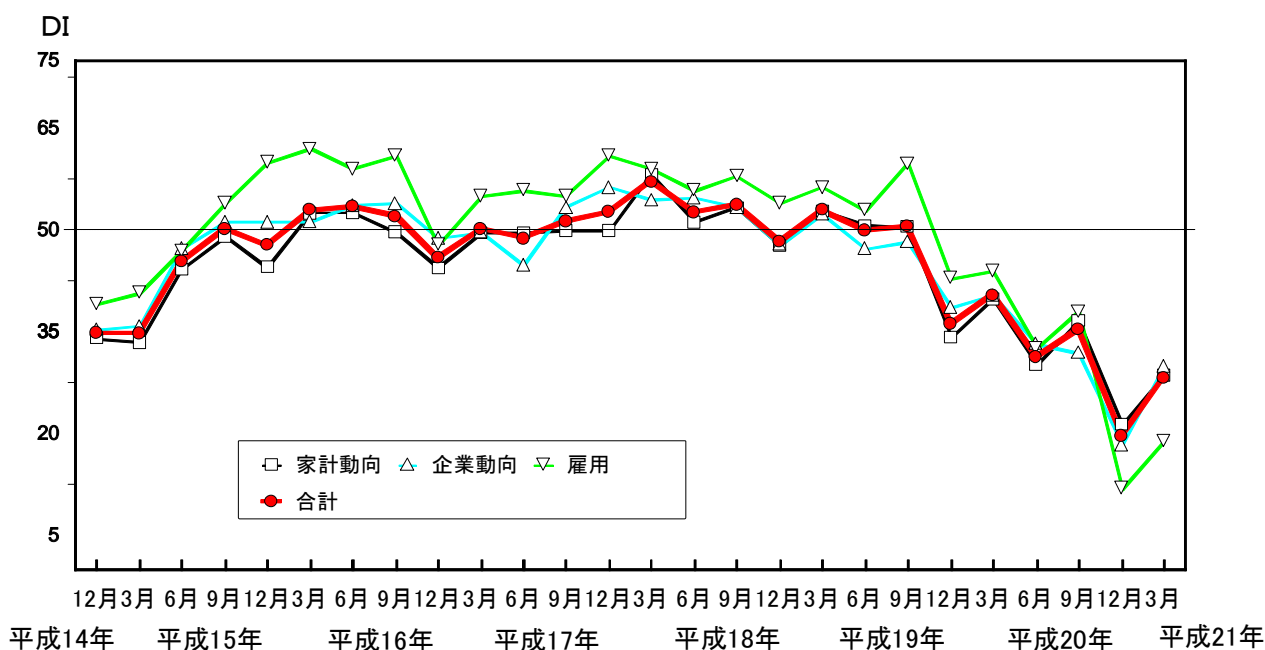
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査月				
	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
合計	40.4	31.3	35.4	19.7	28.2
家計動向関連	39.9	30.2	36.7	21.4	28.6
小売関連	36.5	26.7	33.5	19.5	28.0
飲食関連	36.9	28.6	32.5	21.1	36.1
サービス関連	43.0	32.2	40.5	22.2	26.9
住宅関連	47.2	44.4	38.9	30.6	33.3
企業動向関連	40.4	33.3	32.0	18.3	30.0
農林水産業	53.1	25.0	46.9	28.1	53.1
製造業	39.7	33.9	30.3	18.1	32.1
非製造業	38.3	34.7	30.6	16.1	21.0
雇用関連	44.0	32.6	38.0	12.0	19.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成20年 3月	0.3%	11.9%	43.9%	36.7%	7.1%
平成20年 6月	1.4%	5.4%	30.3%	42.9%	20.1%
平成20年 9月	1.4%	7.2%	39.3%	35.9%	16.2%
平成20年 12月	0.0%	2.4%	19.5%	32.8%	45.4%
平成21年 3月	1.1%	6.3%	29.2%	31.0%	32.4%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは16.2となった。12月調査分より7.5ポイント低下し、横這いを表す50を8期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		34.6	32.5	33.5	23.7	16.2
家計動向関連		30.9	32.6	30.4	20.9	17.1
企業動向関連		38.2	30.9	38.2	29.4	14.7
雇用関連		50.0	37.5	40.0	25.0	15.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	5.0%	43.3%	36.7%	15.0%
平成20年 6月	0.0%	5.3%	36.8%	40.4%	17.5%
平成20年 9月	1.7%	3.4%	39.0%	39.0%	16.9%
平成20年 12月	1.7%	8.5%	16.9%	28.8%	44.1%
平成21年 3月	0.0%	0.0%	14.0%	36.8%	49.1%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは20.1となった。12月調査分より3.6ポイント低下し、横這いを表す50を7期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		36.4	30.5	34.6	23.7	20.1
家計動向関連		34.7	28.9	35.9	28.3	24.3
企業動向関連		37.5	29.7	32.8	15.6	14.1
雇用関連		45.0	45.0	30.0	15.0	10.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	7.0%	38.6%	47.4%	7.0%
平成20年 6月	0.0%	3.4%	28.8%	54.2%	13.6%
平成20年 9月	1.7%	8.3%	26.7%	53.3%	10.0%
平成20年 12月	0.0%	6.8%	16.9%	40.7%	35.6%
平成21年 3月	0.0%	1.8%	17.9%	39.3%	41.1%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは14.0となった。12月調査分より6.3ポイント低下し、横這いを表す50を6期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。また、現状判断DIは全地域を通じて最低となった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月				
	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
合計	34.3	25.4	28.6	20.3	14.0
家計動向関連	34.5	22.3	26.5	22.9	17.4
企業動向関連	33.8	29.4	32.8	17.6	10.9
雇用関連	35.0	35.0	30.0	10.0	0.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	3.4%	47.5%	32.2%	16.9%
平成20年 6月	0.0%	1.7%	28.8%	39.0%	30.5%
平成20年 9月	0.0%	5.5%	25.5%	47.3%	21.8%
平成20年12月	0.0%	1.7%	19.0%	37.9%	41.4%
平成21年 3月	0.0%	1.8%	8.8%	33.3%	56.1%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは23.2となった。12月調査分より1.0ポイント低下し、横這いを表す50を6期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値であるが、現状判断DIは全地域を通じて最高となった。業種別にみると、企業動向関連DIは12月調査分を上回ったが、家計動向関連及び雇用関連DIは12月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月				
	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
合計	41.1	34.2	32.1	24.2	23.2
家計動向関連	46.5	37.2	29.5	26.4	25.0
企業動向関連	26.4	25.0	37.5	23.6	26.4
雇用関連	55.0	45.0	30.0	10.0	0.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	1.7%	11.9%	40.7%	40.7%	5.1%
平成20年 6月	1.7%	8.3%	33.3%	38.3%	18.3%
平成20年 9月	0.0%	8.9%	25.0%	51.8%	14.3%
平成20年12月	1.7%	5.1%	13.6%	47.5%	32.2%
平成21年 3月	1.8%	0.0%	23.6%	38.2%	36.4%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは19.1となった。12月調査分より0.3ポイント低下し、横這いを表す50を7期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、企業動向関連DIは12月調査分を上回ったが、家計動向関連及び雇用関連DIは12月調査分を下回った。

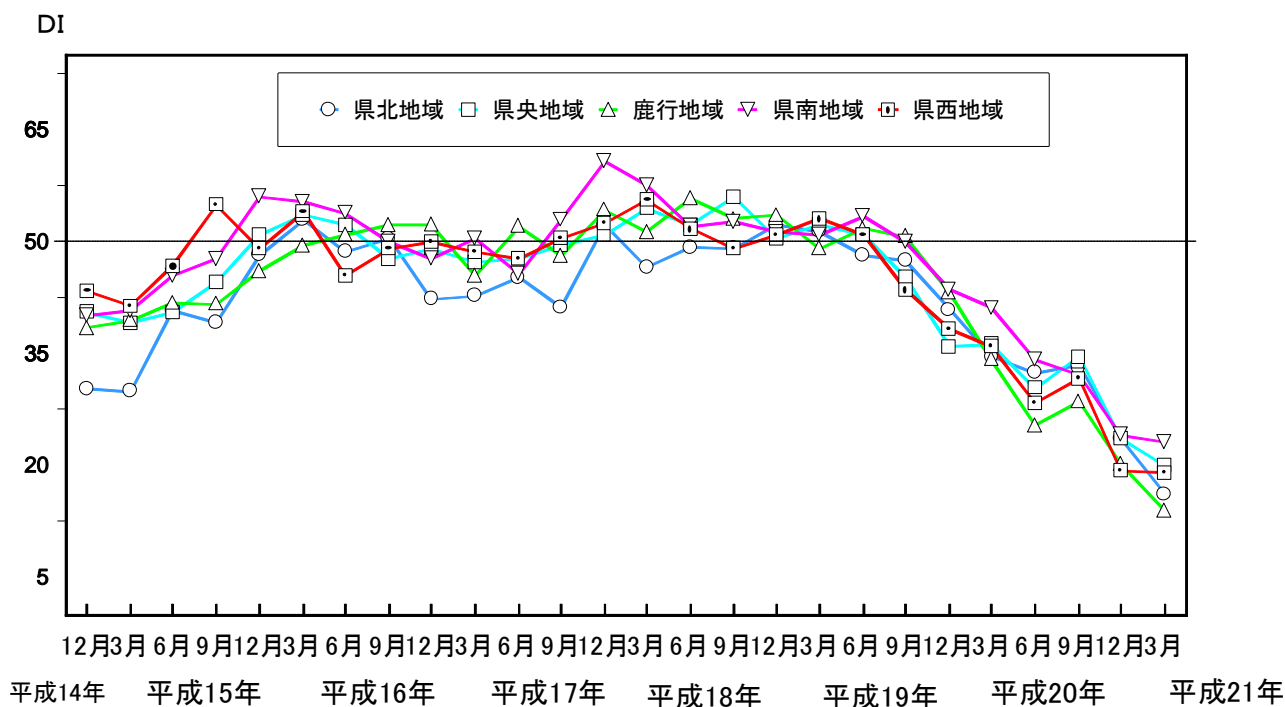
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		36.0	28.4	31.7	19.4	19.1
家計動向関連		34.0	23.6	34.0	21.4	18.8
企業動向関連		38.9	38.2	27.6	16.7	25.0
雇用関連		40.0	25.0	30.0	15.0	0.0

表2-10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	13.6%	30.5%	42.4%	13.6%
平成20年 6月	1.7%	3.4%	25.4%	45.8%	23.7%
平成20年 9月	0.0%	10.0%	30.0%	36.7%	23.3%
平成20年 12月	0.0%	3.4%	17.2%	32.8%	46.6%
平成21年 3月	0.0%	5.1%	11.9%	37.3%	45.8%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月前の景気の先行き判断DIは24.6となった。12月調査分より9.3ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来2番目に低い値である。また、先行き判断DIは全地域を通じて最低となった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		40.0	34.6	39.4	15.3	24.6
	家計動向関連	37.5	31.9	40.5	14.2	26.4
	企業動向関連	47.1	39.7	35.3	17.6	20.6
	雇用関連	35.0	37.5	45.0	15.0	25.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	15.0%	35.0%	45.0%	5.0%
平成20年 6月	1.8%	5.3%	42.1%	31.6%	19.3%
平成20年 9月	3.4%	6.8%	45.8%	32.2%	11.9%
平成20年 12月	0.0%	1.7%	15.3%	25.4%	57.6%
平成21年 3月	3.5%	3.5%	24.6%	24.6%	43.9%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは25.9となった。12月調査分より7.7ポイント上昇したものの、横這いを表す50を7期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来2番目に低い値である。業種別にみると、雇用関連DIは横這いだったが、家計動向関連及び企業動向関連DIは12月調査分を上回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		39.9	30.9	37.5	18.2	25.9
	家計動向関連	39.6	30.9	44.9	24.3	32.1
	企業動向関連	39.1	29.7	21.9	7.8	18.8
	雇用関連	45.0	35.0	30.0	5.0	5.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	8.8%	50.9%	31.6%	8.8%
平成20年 6月	0.0%	8.5%	25.4%	47.5%	18.6%
平成20年 9月	0.0%	8.3%	43.3%	38.3%	10.0%
平成20年 12月	0.0%	6.8%	8.5%	35.6%	49.2%
平成21年 3月	0.0%	5.4%	23.2%	41.1%	30.4%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは28.1となった。12月調査分より7.0ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最3番目に低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成20年	平成20年	平成20年	平成20年	平成21年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		41.5	27.1	32.3	21.1	28.1
	家計動向関連	40.5	25.0	27.9	22.9	26.4
	企業動向関連	42.6	30.9	40.6	20.6	34.4
	雇用関連	45.0	30.0	35.0	10.0	20.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	1.7%	8.5%	52.5%	28.8%	8.5%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	16.9%	47.5%	27.1%
平成20年 9月	1.8%	3.6%	40.0%	30.9%	23.6%
平成20年 12月	0.0%	1.7%	15.5%	48.3%	34.5%
平成21年 3月	0.0%	5.3%	35.1%	26.3%	33.3%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは30.5となった。12月調査分より5.9ポイント上昇したものの、横這いを表す50を6期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も4番目に低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
	合計		36.9	29.6	30.4	24.6
家計動向関連		39.6	31.8	28.8	22.9	29.7
企業動向関連		29.2	25.0	31.9	31.9	34.7
雇用関連		45.0	30.0	35.0	10.0	20.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	10.2%	37.3%	42.4%	10.2%
平成20年 6月	1.7%	0.0%	31.7%	48.3%	18.3%
平成20年 9月	0.0%	7.1%	25.0%	50.0%	17.9%
平成20年 12月	0.0%	1.7%	33.9%	25.4%	39.0%
平成21年 3月	1.8%	7.3%	29.1%	34.5%	27.3%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは31.8となった。12月調査分より12.4ポイント上昇したものの、横這いを表す50を8期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来2番目に低い値であるが、先行き判断DIは全地域を通じて最高となった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

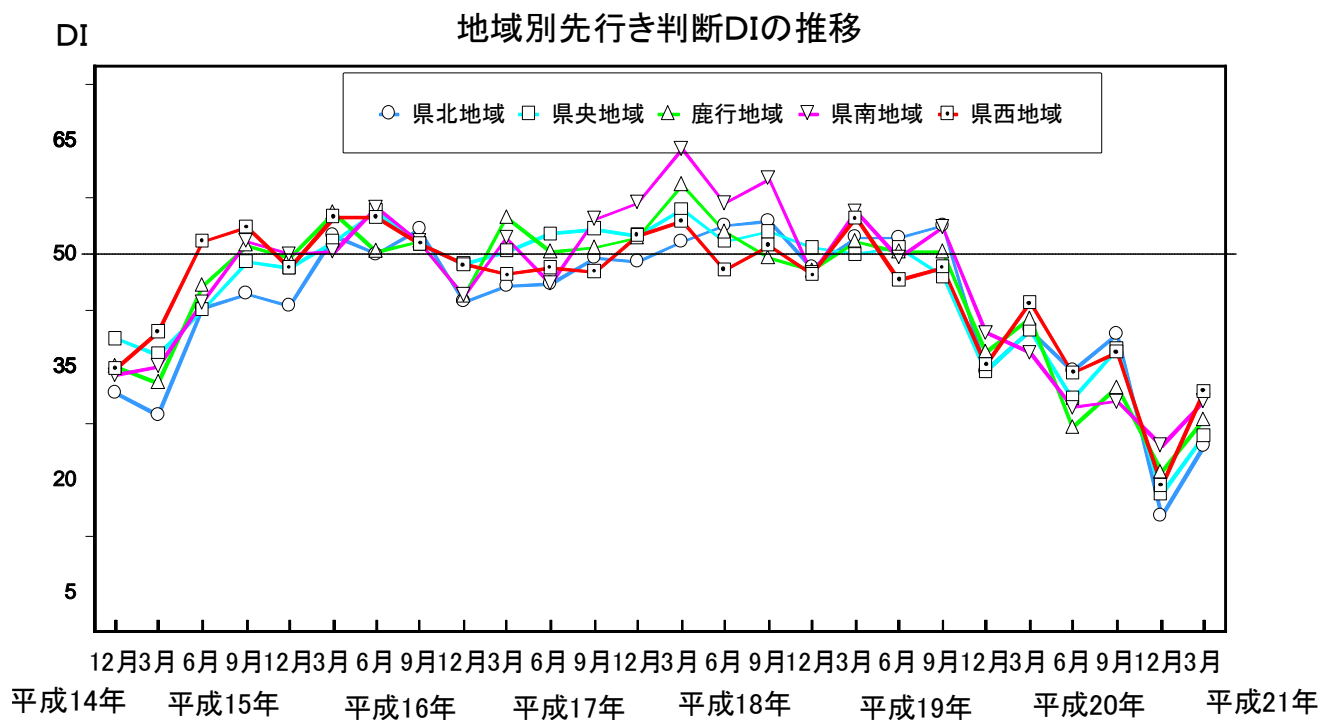
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成20年 3月	平成20年 6月	平成20年 9月	平成20年 12月	平成21年 3月
	合計		43.6	34.3	37.1	19.4
家計動向関連		42.4	31.3	39.6	22.9	28.5
企業動向関連		44.4	40.8	30.3	12.5	40.3
雇用関連		50.0	31.3	45.0	20.0	25.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成20年 3月	0.0%	16.9%	44.1%	35.6%	3.4%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	35.6%	39.0%	16.9%
平成20年 9月	1.7%	10.0%	41.7%	28.3%	18.3%
平成20年 12月	0.0%	0.0%	24.1%	29.3%	46.6%
平成21年 3月	0.0%	10.2%	33.9%	28.8%	27.1%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	284 人	94.7%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	57 人	95.0%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	59 人	98.3%

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良				
やや良				
変わらない	家計	コンビニエンスストア	3か月前の時点で金融危機が始まっていたので、その後大きな変化は感じられない。したがって、変わらないと判断する。ただ、派遣切り等が実施された企業の近隣に立地する店舗では客数及び売上げともに、大きく落ち込んでいる。	
		レストラン	客の声から判断して、3か月前と景気の状態は変わらない。	
		スナック	3か月前と同様に売上げが少ない。	
		旅行代理店	バス旅行でみると変わらない。また、格安ツアーへ参加する客が増加して、通常金額のツアーへ参加する客が減少している。	
		ゴルフ場	来場者数は、前年同時期の来場者数と比べて、微妙であるが増加の傾向と思われる。その要因は、昨年、集客対策を実施したことに加え、企業の休日が増えたことの影響もあるように思う。ただ、場内ショップ及びレストランの利用者は減少しており、来場者の増加に対して利用内容が減少していることが気になることである。客の動きを見ると、料金の変化を敏感に捉えて、上手に来場頂いているという状況であり、回数を減らしているとの声はまだ少ないようである。近郊のゴルフ場を見ると、料金設定を極端に安くして集客に取り組んでおり、目標とする客層を定めて、来場者の確保を進めている。	
		理・美容店	時期的な行事の前には若干の来客者の増加はあるが、それが過ぎれば、通常の来客者数に戻るため、特段の変化はない。	
	企業	製造業（食料品）	売上高は大きく変わらず、多少の減少はあるものも例年通りの季節的要因による変化と思われる。原料高による収益への圧迫は3か月前と同様である。	
		建設業	一時的に資材価格も安定し、景気も悪くなってからは全体的に低迷の度合いが変わらずに推移してきたので、何とか対応することができていると思う。	
	やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	週末の行楽客の動きが例年と比べ少なく、売上げ及び客数が減少している。
			衣料品販売店	値下げ品、お買い得品を購入する客が多くなった。客数及び客単価がかなり低下している。
小売業（水産物）			安価な商品の売れ行きは良いが、「ついで買い」や「まとめ買い」をする客をあまり見かけない。客は必要以上の買物をしなくなっている。	
居酒屋			不安がたくさんある。	
和食食堂			年末に終わる予定の小規模の道路工事が、何らかの事情で大規模工事となり、現在も工事が続いている。その影響で客足が遠のいている。	
観光型ホテル			夜間のフリー客の数が、減少している。	
観光型ホテル			当地では、暖冬の影響により、袋田の滝は凍らず、また、久慈川の名物である川の流水「シガ」も見られなかったため、観光客の足が遠のいた。	
観光型ホテル			予約数は、前年の同時期と比較して、ほぼ横這いであるが、客単価は減少している。	
タクシー運転手			1日平均売上げが3か月前と比べ約1割減となっている。	
パチンコ店			近隣の大規模工場に関する暗い話題が原因かもしれない。	
レジャー施設		来場客を見ると、当施設の売店や食堂を利用する客よりも、コンビニエンスストアで弁当等を購入して来たり、家庭で弁当を作って持参する客が増加しており、当施設内でお金を落としてもらえなくなっている。		
理・美容店		景気低迷の影響により、客の来店の間隔が確実に長くなっており、客単価もかなり低下してきている。		
企業		製造業（電気機械器具）	受注していた案件が、金融不安等の理由により軒並みキャンセルとなり、現在は先行して着手できる仕事が少ない状況である。会社側も残業や工数の削減のみならず、消耗品等の節約、節水、節電等、徹底した経費削減に取り組んでいる。	
	製造業（電気機械器具）	当社では特殊な商品を販売しているが、以前と比較すると予算金額が減少しており、受注量がやや減少しつつある。		
	製造業（電気機械器具）	作業量が減少し、それに伴い時間外作業も減少している。		
	製造業（電気機械器具）	打ち合わせや会議等で当事業所を訪問する客の数が、3か月前と比較して減少している。		
	金融業	顧客の多くが、仕事の受注量の減少による運転資金の確保に不安を感じている。		
	不動産業	相変わらず消費者の購入意識の低下が見られる。「様子見」の客が多く、また、不動産を購入する意思があっても、金融機関の融資審査の結果、融資が不可となるケースが多いように思う。		
雇用	公共職業安定所	新規及び有効求人数が14か月連続で前年同月を下回って推移している。また、労働契約の取り消しや雇い止め等により、近いうちに退職を余儀なくされる予定の在職者からの相談が増加傾向にある。		
	学校就業関係者	4月開講の1年間コースの応募者が増加した。		
	求人開拓員	ほとんど企業において、受注量、売上げ高、生産高等がマイナスに転じているため、求人数が減少している。		

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	昨年9月のアメリカ大手証券会社の経営破綻以降の世界的な景気後退により、日立地区の製造業の仕事量が大幅に減少している。特に、自動車関連や素材関連の事業所での減少が大きいようである。このような状況にあるため、消費マインドが減退していると思う。
		スーパー	売上げ及び来客数が減少している。定価販売の通常商品が売れなくなっており、チラシ広告に出した安価な商品だけを購入する客が増加した。客は無駄なものは購入しなくなっている。
		スーパー	地元の工場についてリストラの話をよく聞く。そういった状況なので、当然、消費は冷える。また、来客数は変わらないが、1人当たりの売上額は減少している。客は必要なものしか買わなくなっている。
		衣料品販売店	年末・年始に売り出しを実施したが、ほとんど売上げに結びつかなかった。客は、本当に必要な物しか買わなくなっている。
		自動車販売店	売上げ及び来客者が減少している。
		農産物直売所	来客数・客単価ともに落ち込み、売上が減少した。
		ガソリンスタンド	一般的に、元売りの資本の強いスタンドが安売り攻勢を掛けており、仕切り上げに対応していない。
		小売業（酒類）	店頭販売の来店客数が減少している。また、顧客の飲食店では、アルコール飲料の売上げが減少している。また、同じく顧客である近隣の製造業、建設業等では仕事量が激減しており、週に1日操業としている企業もある。
		小売業（靴製品）	商品一品当たりの単価が低下している。シーズン末期に半額処分セールを実施しても売上げが伸びない。70%引き程度まで値下げしなければ売れないと思う。
		居酒屋	売上げは最悪に近く、客の来店回数も少なくなってきた。また、売上げの悪化に伴い、生活も厳しい状況である。
		タクシー運転手	企業の現在の状況が大きく影響している。
		タクシー運転手	当社はもとより他社のタクシー運転手に聞いても、法人及び個人客とも大幅に減少しており、営業収入も激減している。
		タクシー運転手	3か月前と比べて、業界全体的に、売上げが低下している。客の話では、今まで距離に関係なく会社から支給されていたタクシー代が、乗車してから2、3分で着いてしまうような近距離では支給されなくなったという。その他、客との会話からは、企業、飲食店、その他業界も厳しい状況にあることが伝わってくる。
		ドライブイン	年明けから多くの業種で、週の稼働及び出勤日数を減少させているため、多くの人が、休日が増えても収入が伴わないので、ドライブに出掛けても、余計な支出は控えている様子であり、売上げの伸びはなく、来客数も前年の同時期を下回っている。
		ゴルフ場	地域の企業等の減収減益の波を受け、平日来場者数は3か月前と比べて約63%と減少している。また、料金単価の高い土・日・祝日の企業来場者数が3か月前と比べて約79%となっている。さらに、近隣のゴルフ場等との低料金競争が厳しくなってきた。
	クリーニング店	クリーニング業にとって、冬は閑散期で暇な時期だが、前年の同時期と比較すると、点数及び単価ともに減少している。	
	住宅販売会社	特に県北地域は、この不況による地元大企業の業績悪化が直接響いている。	
	企業	林業関係者	住宅用の柱材価格が急激に低下している。
		水産業関係者	常磐海域の水産業界にとって、昨年は年明けから年末まで豊漁の1年であった。しかし、燃油の高騰もあり、実益としてはあまり良くはなかった。今年は、異常気象により時化（しけ）が続き、不漁のスタートとなっている。また、輸出向けのサバは円高により価格が安定せず、昨年に比べ、大幅な減益となり、当業界の景気の足を引っ張る要因となっている。
		製造業（一般機械器具）	雇用の見直しを迫られている。
製造業（電気機械器具）		昨年末から受注及び生産の落ち込みが始まり、現在も右肩下りの傾向が続いている。受注予測の計画も乏しく、何とか頑張っただけで耐えているのが現状である。取引先の新規開拓に取り組んでいるが難しい。先の見えないジリ貧の状況である。	
製造業（電気機械器具）		自動車業界の悪化により、自動車部品製造業関係が、今年に入ってから特に悪くなってきた。また、地元の建設業、工務店は、大手メーカーに押されて受注がない状況である。さらに、今年に入ってから、倒産する企業も出てきた。	
製造業（電気機械器具）		売上高・受注高ともに3か月前と比べて大きく下回っている。特に今年度末は在庫調整が厳しく、生産量が大きく減少しているため、景気は悪くなっている。	
製造業（輸送用機械器具）		北米に端を発した金融危機が各国に広がり全世界同時不況となったことから、自動車業界も大きな打撃を受け、全自動車メーカーが販売不振に陥る結果となった。国内の自動車メーカーはマイナス50～60%の生産調整を実施している。当社もその影響をものろに受け、大々的なリストラを実施した。派遣従業員、パートタイマー、シルバー人材の雇用契約の打ち切りに加え、正社員の解雇も実施した。更に、賃金カット等を実施したが、固定費の未回収は避けられず大幅な収益悪化を余儀なくされ、資金調達に追われる状況にある。好転要因としては銅、アルミニウム、鉄材料等の原材料価格が低下していることが挙げられるが、全体をカバーするまでには至っていない。	
建設業		他業種の方々に話を聞いても、皆、大変苦労をしている。	
情報通信業（情報サービス業）		確実だと思っていた案件が持ち越しや縮小となるケースが増加してきている。また、給料が減額されたが、それでも倒産するよりはましと思える状況である。	
雇用		人材派遣業	臨時休業する企業が増加してきた。派遣労働者の給料も半分になり、普通の生活ができなくなってきた。
	求人広告	訪問先含め事業を縮小する企業が多々ある。	

(2) 県央地域 【現状】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良				
やや良	家計	都市型ホテル	前年同時期と比べて、観光利用者が増加している。	
変わらない	家計	スーパー	単価の低い商品の動きは良いが、それ以外の商品の動きは低迷している。セール等の特価品の動きは良くなっている。	
		ファミリーレストラン	3か月前の来客数と比べてあまり変化がない。また、前年同時期と比べても、同じような数値である。	
		旅行代理店	燃油サーチャージの料金がまだ高い状況にあり、海外旅行の買い控えが見られる。皆、4月以降の、大幅な燃油サーチャージの料金の引き下げを待っているように見受けられる。また、景気の動向に連動して、単価の低下が続いている。	
		ドライブイン	借楽園が観梅期間中となって多くの来園者で賑わっている。しかし、当売店においては、年々、客単価及び宅配依頼が少なくなっており、また、日帰りのため、みやげ品を買わない客が多くなっている。客の財布のヒモは堅くなっているように思う。	
		観光名所	来場者数及び売上げとも前年同時期並みで推移している。ただし、2・3月の来場者数は、若干増加してきている。	
		理・美容店	悪い状況で変わっていない。1年で最も忙しい月である3か月前の12月であっても、普段の月と同じ程度の来客者数であった。また、確定申告をしたところ、今までで、最も悪い1年となった。	
	企業	製造業(食料品)	3か月前の12月においては、年末年始用の菓子がまずまずの売れ行きであったが、2月は昨年より売上げが落ち込んだ。3月の観梅客に期待する。	
		建設業	相変わらず、官・民とも工事の発注が少ない状況で停滞している。	
		運輸業(道路貨物運送業)	年度末であるにもかかわらず、相変わらず原材料の出荷が激減したままである。	
	雇用	学校就業関係者	年末に内定取り消しが1件出た。それ以降は内定取り消しは出てないが、年末の頃より状況が好転しているわけではない。	
	やや悪くなっている	家計	商店街代表者	卒業式・入学式のお祝い用のプレゼント商品が売れたが、例年と比べて、客単価が低くなっている。また、見積りによって納品先を決定するケースが多く、見積り価格の競争が激しくなり、納入価格は大きく下落している。
			百貨店、総合スーパー	来店客数の減少及び客単価の低下の傾向が見られる。
			百貨店、総合スーパー	化粧品、生活雑貨等の日常的な要素の強い消耗品についての客の購入頻度が減少している。また、価格的にランクを落とす客も、多く見られるようになった。衝動買い、まとめ買いをする客が大幅に減少した。
			家電販売店	前年同時期と比べて、商品の動きが鈍い。また、修理の依頼や問い合わせの電話の件数も減少している。
			自動車販売店	販売台数について、前年同時期と比べると、40%近く減少している。また、修理で入庫する車の台数も減少しており、全体的に売上げが減少している。
専門スーパー			前年同時期と比べ、客数の減少及び客単価が低下している。客は、安くて必要な商品のみ購入し、それ以外は購入しない。客との会話では、「不景気だから…」という言葉が挨拶代わりに使われている。	
レストラン			歓送迎会の時期であるが、予約の動きが例年より鈍い。	
割烹料理店			大企業でさえ週3日しか営業しておらず、仕事も減少しつつあると聞いている。そういった経済状況であるため、外食を減らす人が増加していると思う。また、新聞等のマスコミ報道の影響により、お金を使うことをためらう人が増加したように思う。	
都市型ホテル			歓送迎会の時期になったが、予約数及び単価とも、前年同時期に比べて減少している。	
観光型ホテル			企業及び団体客の利用の減少に加え、直近では個人客の動きが悪くなっており、衝動的な消費は極力控えられているように思う。	
タクシー運転手			飲食店も活気がない様子であり、閉店している店舗も多い。また深夜のタクシー利用客も減少している。	
ドライブイン			前年同時期と比べ、来客数はやや増加しているが、売店の商品の売上げが減少しており、客単価が低下している。したがって、全体の売上額は前年同時期を下回っている。	
ゴルフ場			前年同時期に比べ、予約申込み件数が極端に減少している。	
パチンコ店			集客及び売上げの減少	
パチンコ店			客の来店頻度が落ちている。前3か月と比較しても、売上げはやや減少している。	
レジャー施設		実体経済の極端な悪化により、当施設の利用が控え目になったように感じる。		
レジャー施設		平成20年12月20日に北関東自動車道と東北自動車道が連結したことにより、栃木県からの来場者が増加しているが、全体的に見ると、来場者数の推移は前年並みである。栃木県からの来場者数の増加を除くと、実質的には減少傾向にある。		
建築設計事務所		住宅等の新築物件は確実に減少している。客からの要求に応じて価格を下げて受注しようかどうか迷っている業者もいる。公共工事も新築はほとんどなく、既設建物の改修や耐震診断・補強の物件ばかりである。		
住宅販売会社	リストラや減給等の理由による契約のキャンセルが出てきている。			
企業	農業関係者	貯金や共済を中途解約する客が増加し、新規契約の客が減少傾向にある。		
	製造業(印刷・同関連業)	受注量が減少している。また、受注のあったものでも、発注者から、サイズの縮小、薄い用紙への変更、多色刷りから単色刷りへの変更等が求められるケースが多い。さらに、ガソリン等の価格は低下したが、インキや紙などの原材料の価格は低下していない。		
	不動産業	来客者数に変化はないが、1人当たりの単価が低下している。		

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	業種を問わず、一様に昨年末くらいから厳しい状況にあるという話をよく耳にする。
		スーパー	客数及び売上げ点数ともに減少している。客はより安い商品を、必要な数量分しか購入しない。
		スーパー	マスコミの報道等による影響で、消費者に不景気感が強まっている。また、単品買いや目玉商品への需要が高まり、売上げ点数が伸び悩んでいる。
		スーパー	客1人当りの購入単価が低下している。
		専門スーパー	客は必要な商品以外は購入しない。客単価が低下している。
		タクシー運転手	売上げが減少した。
		タクシー運転手	実車回数及び売上げについて、3か月前（11月17日～12月14日：営業日数19日）と今回（2月16日～3月11日：営業日数：16日）とで比較してみると、実車回数で26.2%減、売上げで37.2%減と大幅な減少となり、過去10年間で最悪の結果となった。
		タクシー運転手	売上げは前年同時期と比べて、営業回数が減少し、売上げも20%減少している。このままでは、生活ができなくなる恐れがあり、転職を考えなければと思うことがしばしばある。
		理・美容店	例年、1年を通して最も忙しい月が12月であるのに対して、最も暇な月が2月ある。全体的に客の来店間隔が長くなっている。
	企業	製造業(食料品)	売上げが減少している。販売数量及び単価ともに減少している。マスコミ報道が経済のマイナス面のみを強調するので、日常生活用品にまで買い控えが起きているように思う。
		製造業(印刷・同関連業)	受注が減少している。
		製造業(窯業・土石製品)	大規模宅地開発業者等の倒産による工事の一時中断や計画中止の影響を受け、法人向けの売上げが減少している。また、個人向けの売上げについても、買い控えの影響により激減している。
		製造業(金属製品)	受注量が減少したため、稼働率が低下し、手持ちの仕事量も2～3か月分しかなくなってきた。
		製造業(一般機械器具)	3月2日現在で3か月前と比べると、状況はかなり悪くなっている。取引先の企業・工場では金・土・日・月と休業にしているところもあり、協力工場である当社にとって、どうにもならない状況が現実となっている。早く調整を終えて、普通に仕事ができる状況となることを望む。
		製造業(精密機械器具)	受注量は、3か月前においても平均より低い状況であったが、現在は更に落ち込んでいる。
		情報通信業(情報サービス業)	不況の声に合わせるかのように、多くの企業において新規投資の氣勢が削がれてきており、例年になく先行きの商談が薄い。市場では、あまり明るい材料も見当たらず、諦めの雰囲気蔓延している。製造業が特に厳しいと言われていたが、業種にかかわらず景況感は極めて悪いと感じられる。
		金融業	不況の業種を対象にした全国緊急融資保証制度への関心が高く、申込みも多い。また、駅前のデパートや駅構内の店舗が撤退したため、商店街等、駅周辺への客足がますます遠のいている様子であり、多くの顧客で、前年同時期と比べて売上げが減少している。また、貸金の返済が遅れる顧客が目立ち始め、返還条件の緩和を求める顧客の声が多くなってきている。
		サービス業(広告業)	顧客の企業の多くで広告宣伝経費はかなり削減されている。発注量の減少や仕様の変更等による単価の下落であるならまだしも、見積りの依頼すら無くなってきている。
	サービス業(コンサルタント業)	顧客の小売店や飲食店の前年同時期の売上げを比較すると、これまではなかったような落ち込みを見せている。これまでは前年割れといっても、90%台で持ちこたえていたが、ここにきて一気に90%を割り込んでしまっている。特に、暖冬の影響を受けた業種は厳しい状況になっている。	
	雇用	人材派遣業	製造業の生産減により、人員削減が更に増加し、一時帰休も増加してきた。
		求人広告	人員削減や経費削減のため、求人募集広告を出す企業が大幅に減少している。逆に、求職者の応募が増加している。
		公共職業安定所	このところ、製造業の事業所(特に自動車部品関連)から、減産による一時帰休に伴う雇用調整助成金の相談が増加している。1月の新規求職者数は2,574人で、3か月前との比較では20.8%増となっている。また、雇用保険受給資格の決定件数も、713件と3か月前との比較で11.2%増となっている。
		就職相談員	電話や講習会等を除いた求職者数(来所者数)は11・12月の合計で2,532名。1・2月の合計で3,146名となり、12.4%増となった。一方で、求人数は、11・12月の計で1,136名。1・2月の合計で793名となり、30%減となった。生活に不安を抱えている人が多い。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良			
やや良	家計	パチンコ店	世界情勢を見ても、世間一般的には景気は悪いと思う。しかし、この業界に関しては、話題機種の登場もあり、商圏稼働が向上している。
変わらない	家計	家電販売店	3か月前と比較して、来客者数は変化していないが、客の商品購入の仕方に変化が出てきている。競合他社の商品価格を調査した上で来店する客が多くなり、来店したその場で購入が決定する割合が低下している。また、3月は新生活関連の需要により、売上げが伸びる時期であるが、客の購入する商品の価格が低下しており、「できるだけ出費を抑えたい」という声をよく聞く。
		農産物直売所	客単価はそれほど変わらない。なお、贈答用としての購入分には多少の動きはあるものの、自宅消費分については買い控えが見られる。また、例年であれば、贈答用のメロンの問い合わせが多くなる時期であるが、今年は少なめである。
		観光型ホテル	3か月前と予約状況が同じである。
	企業	農業関係者	3か月前と同様に、農業資材や肥料等が高騰している一方で、農作物の市場価格は低価格で推移しており、変わらないと判断する。昨年まで高値で市場に出したワラビは、今年は昨年の3割以下の価格となっている。「食べなくてもよい物は買わない!」という客が増加しており、そういった節約によりこの不景気を乗り切ろうとしている様子が見える。なお、地球温暖化の影響もあるのか。農作物が過剰気味である。
		製造業(飼料)	原油及び穀物の価格が比較的安定しているため、大きな変動はない。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	今年の確定申告において、売上げを伸ばしている事業所はほとんどないのではないかと思います。特に、小売業関係は落ち込みがひどく回復の兆しは見られない。
		スーパー	来客数の変化は少ないが、野菜や食料品の宅配便の取り扱い量が減少している。以前は、月末や年金支給日、翌日等に離れて住んでいる子供や親戚等へ宅配便で送る客が多かったが、現在は減少している。また、客は食料品の価格の変化に敏感になってきている。5円、10円の価格の上下により、売れ筋が大きく変化するようになっている。
		スーパー	日替りの安い商品を買う客が増加している。客は無駄な商品は絶対には買わない。また、客との会話では「仕事がなく困っている」という話をよく聞くようになっている。働く場所がない人が多い。
		コンビニエンスストア	担当エリア内の各店舗の売上げ伸長率の純化している。また、来客数は変わらないが、売上げ点数及び客単価が低下しており、客の消費を節約していることがうかがえる。
		小売業(酒類)	ビール・発泡酒の販売量が減少し、より低価格の「新ジャンル」あるいは「第3のビール」と呼ばれるビール風味の発泡アルコール飲料の販売量が増えている。
		小売業(書店)	来客数及びまとめ買いをする客が減少している。また、客が少なくなる時間帯が早くなってきている。
		衣料品販売店	客は買い控えをしており、1人当りの単価も減少している。
		洋食食堂	前年同月の売上げをクリアできない。
		タクシー運転手	先日、居酒屋の女性経営者が乗車した際、「花の金曜日の客の入りはどうか」と尋ねたところ、「毎日店を開けるのが怖い。先週の金曜日は、客が1人だった」とのことであった。また、「会社から、週に2~3日休んでくれないか」、「給料が下がった」等の声も多く聞かれるようになっている。
		タクシー運転手	目的地到着前まで料金メーターがカチッと上がると、機嫌が悪くなり「不愉快だ」と怒り出す客が最近増加しており、タクシー代を切り詰めている様子が見える。また、今月の前年比と3か月前の12月の前年比を比べると、今月の前年比の売上げが26%減となっており、景気はやや悪くなっている。
		観光名所	観光施設への客の出入りの動向が、3か月前と比べ急激に減少している。
		理・美容店	景気が悪くなり、客はなるべくお金を使わないようになっており、来店の間隔が長くなっている。
		クリーニング店	このところ悪天候が続いたこともあり、客数が少ない。残業が年度末の割には少ない。
住宅販売会社	買い控えが進んでいる。		
	企業	金融業	顧客の状況を見ると、企業及び個人ともに返済財源の確保が困難となり、返済額軽減の依頼多くなってきており、資金繰りに窮していることがうかがわれる。
		保険業	当地は建設業が多いが、大工が建てている家が少ない。
		不動産業	3か月前の時点では思いもよらなかったことばかりが起きている。人材派遣会社が、派遣社員のために借り上げていた賃貸物件の解約や及び賃料の値下げを要求する客が増加してきており、当社及び家主にとって頭の痛いところである。
悪くなっている	家計	商店街代表者	ホップ・ステップ・ジャンプというような感覚で経済政策が打ち出されているにもかかわらず、アメリカ産業の深刻な空洞化及び購買力の低下が世界中に波及し、日本もその影響を受け、不況感が漂っている。しかし、日本と同盟国であるアメリカは日本と同様に豊かな底力を有しており、その底力を発揮して、本物の責任ある新しい時代を築いていくことが必要不可欠である。
		商店街代表者	現金の売上げが減少してきている。顧客の外国人の来店がなくなった。
		コンビニエンスストア	有効な景気対策が何もなく、客の購買意欲が非常に低く、買い控えが多い。したがって、売上げ及び単価ともに上がらない。
		自動車販売店	来店客が減少しており、販売台数が減少し続けている。
		小売業(菓子販売店)	当店は消費者のニーズに対応できていない。
		小売業(金物店)	官公庁関連の仕事が減少している。また、顧客の民間企業も生産調整を行っており、通常、定期的に受けている注文の量が減少している。
		割烹料理店	予約以外で来店する客はほとんどいない。また、例年この時期の利用がある顧客も、予算を抑え気味である。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	日本料理店	客との会話の中に、景気の良い話が出ることはない。また、月5回来店してくれていた顧客が、月2回にほどになったり、予算を気にする人が増加している。
		観光型ホテル	客及び関係業者等の全てが悲観的な意見である。
		タクシー運転手	今年に入ってから急激に仕事が減少した。客の実車回数が減少し、実車距離も短くなったため、待機時間が長くなり、売上げが減少した。皆、外出を極力控えている様子である。
		タクシー運転手	来客数が少なく、客との会話も景気の悪い話ばかりである。
		パチンコ店	客との会話においても、「不安を抱えている」という声をよく耳にする。外食や買い物控える等の節約をしている様子である。
		クリーニング店	景気の状況が悪いため、客は品物を出さなくなっている。例年以上に、厳しい状況となっている。
		室内装飾業	一般住宅の建築着工数が激減している。元請け業者を訪問すると、閑古鳥が鳴いているような状況である。
		住宅販売会社	客の住宅購入予算が減少している。
	企業	水産業関係者	漁獲量が大きく減少している。また、不況による消費の冷え込みから、水産加工製品の荷動きも悪く、更に円高により冷凍輸出も低調となっている。
		製造業（食料品）	3か月前の12月には多少の金・物の動きがあったか、現在はほとんど動きがない。
		製造業（食料品）	客との会話からは、就業時間の短縮による収入の減少や解雇の話をよく耳にする。
		製造業（印刷・同関連業）	顧客との会話の中で、「売上げが落ちている」という話を聞かされることが多い。
		製造業（化学工業）	製品の売上げ減少により生産調整を実施している。また、予算においては、経費削減を行っている。
		製造業（化学工業）	3か月前よりも更に需要が落ち込み、生産が休止に追い込まれている。ユーザーも過剰在庫を抱えており、製品を値下げしても売れない状況になっている。
		製造業（鉄鋼業）	先行きが不透明なまま推移しており、減産を余儀なくされている。
		建設業	戸建て建築の契約を締結しても、施主の勤務先も景気が悪いので、先行きの雇用不安等を理由に契約を解除されたケースが多くある。
		運輸業（道路貨物運送業）	貨物の動きが悪い。特に在庫数量が減少してきている。3か月前よりも、各業界の動きが鈍くなってきたり、その影響が運送業にも及んできている。
		運輸業（道路貨物運送業）	地元の景気は非常に悪い状況である。当社の状況においては、特に、自動車産業の悪化の影響が大きい。
	サービス業	営業顧客からの受注量及び仕事の引き合いが減少していることに加え、値引きの要請が増大している。	
	雇用	人材派遣業	鹿島コンビナート内の企業は全般的に極端な景気悪化のどん底にある。全国的な消費の低迷や円高等の状況の中で、原料・素材産業の基地であるコンビナートの打撃は非常に深刻であり、雇用面に影響を及ぼしている。また、雇用不安と生活苦を訴える人が増加しており、人材派遣業界としても極めて厳しい状況にある。
民間職業紹介業		求人企業がかなり減少しており、求人があっても職種が限られてきている。	
公共職業安定所		新規求人の受理件数が減少傾向にある一方で、新規求職者数は30%以上の増加傾向が続いている。また、雇用保険受給資格決定の件数は、50%以上増加しており、受給希望者の退職の理由としては、「受注減少による事業主都合の解雇」等が増加している。	
学校就業関係者		この時期は、例年、各企業から追加の求人募集が多く来る時期であるが、今年はほとんど来ていない。	
求人開拓員		鹿島地区の鉄鋼関係の企業やコンビナート内にある企業は減産体制に入っており、関連する事業所からの求人が大幅に減少している。また、昨年末より内職についての問い合わせが増加しているが、年が明けてからは、更に一層増加している。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	農産物直売所	売上げがグンと伸びている。また、新規の客も増加している。
変 わ ら な い	家計	コンビニエンスストア	値引きセールに対する客の反応は非常に良く、価値が同じであるなら1円でも安く購入したいという客の心理がうかがえる。しかし、客のニーズは低価格商品だけに偏っているというわけではなく、客が特に価値を認めている商品については、高額であっても購入される場合も多い。
		洋食食堂	ひな祭り等のイベントがあったため、一時的に来客数が増加したが、全体的には、例年比で客足が伸び悩んでおり、それほど変化はなかった。
		都市型ホテル	食事、宴会等のレストラン利用者数は3か月前とあまり変わらない。また、宿泊についても、相変わらず、安価なインターネットプランに人気があり、これも特段の変化は見られない。
		都市型ホテル	年末年始の頃から宴会等の料理単価に変化はなく、横這いの状況となっている。
		旅行代理店	旅行申込み件数は3か月前と変わらない。
		ゴルフ場	利用者は増加している。ただし、料金には非常に厳しく、プレー料金を安く設定している日に予約が集中している。マスコミ報道等で雇用の不安定さが連日のように報道されているが、そういった状況の中、客は自分のプレー代に対して、非常に厳しく考えている。
		建築設計事務所	設計の依頼が全くない。
		住宅販売会社	「景気が悪い」という状況のまま変わっていない。
	企業	製造業（食料品）	つくばエクスプレス沿線の開発は引き続き進んでいる。昨年10月にオープンした大型ショッピングセンター「イースつくば」では当初の予想を上回る来店者数があるとのことである。こうした状況を見ると、当地域における表向きの景気は良いようにも見えるが、その一方で、既存の店舗が減少している。
		製造業（飲料）	目立った変化はない。
		製造業（窯業・土石製品）	年度末であるため、顧客からの発注はあるが、大口の案件は少ない。
		建設業（設備工事業）	工場関係の仕事量が減少した。同じ業種の企業からの下請け等で何とか経営を維持している。
		運輸業（倉庫業）	輸出関連の出荷量は減少している。3か月前と比較しても、生産及び出荷数ともに横這いである。企業にもよるが、今月の前年比の伸び率が鈍くなっているものと若干上昇しているものがあり、全体的に見ると変わらない。
	や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー
スーパー			今月の売上げは、前年同月の売上額をクリアすることはできたが、3か月前の伸び率と比較すると、約2%減少している。
コンビニエンスストア			売上げ点数及び単価が減少の傾向にあり、商品が売れなくなってきた。
農産物直売所			連日のように、マスコミからは倒産、生産調整、リストラ等の景気悪化に関するニュースが報道されているが、その報道に接することにより、多くの消費者は購買意欲を減退させ、最終的に、当直売所の売上げにも影響を及ぼしているという側面もあるように思う。市場価格よりも安い商品の売れ行きは良いが、高価格帯商品の売れ行きは悪く、客単価が低下している。
専門スーパー			景気の先行きの不透明感が続いており、例年であれば、この時期は、入学、転勤等の異動に関する需要が大きくなり、売上げが伸びるはずであるが、今年はそれほどでもない。また、小売り部門について、来店客数はそれほど変化していないが、実販売数が減少し、客単価も減少している。
ガソリンスタンド			掛売りが多いため、倒産件数が多い現状においては、債権管理の徹底に力を注がねばならず、本来の営業活動ができず負担となっている。
洋食食堂			来店客数が減少している。特に夜間については、客側に特別な記念日等があるというような場合以外は、ほとんど来客がないような状況であり、その上、アルコール類の注文がほとんどなくなっているため、客単価が全く伸びない。
旅行代理店			4月以降の商品の販売状況は比較的好調であるが、客層に偏りが見られる。ファミリー層の動きが少ないように思う。
ゴルフ場			プレー日当日の参加人数は予約を受けた時よりも少なくなっているという場合が多くなっている。
パチンコ店			曜日によって来客の片寄りが見られる。土・日は良いが他はさっぱりである。特に朝から午前中の来店客が少なく、売上げが少ない。
理・美容店		先行きが不安な日本の経済状況であるため、皆、無駄遣いを抑制し、貯蓄へ回す等をしており、消費が減少していると思う。また、卒業・入学シーズンであるこの時期は、例年、売上げも良くなるのだが、少子化の影響もあるのか今年は賑わいも感じられず、売上げも伸びなかった。	
理・美容店		マスコミの不景気に関する報道の影響もあるのか、顧客の来店頻度が低下している。顧客の中には、カットは娘に、毛染めは嫁にやってもらっている人もいる。	
企業		農業関係者	肥料等の生産経費が高くなっている状況の中で、生産物の価格が上昇せず、利益が出ない。消費者の購入意欲がなく、安い農産物が求められている。農機等も中古品を中心に流通しているようで、修理が可能であるならば、なるべく長く使っていきたい、と考える人が多い。
		製造業（食料品）	12月の売れ行きはかなり良かったが、今年に入り悪くなっている。
	製造業（食料品）	来客数が減少している。	
	製造業（印刷・同関連業）	当社は官公庁からの受注が比較的多いためあまり感じないが、周りの話を聞くと景気が悪いと感じる。	
	製造業（一般機械器具）	パソコン停止時間帯設定等の省エネを含む徹底した経費削減を実施している。	
	建設業	国の財政悪化に伴い、補正予算も公共事業に充てる割合が低くなり、相変わらず受注件数に伸びが見られない。また、民間企業の業績悪化に伴い、設備投資について様子見をしている企業が増加してきているように感じる。	
建設業（設備工事業）	県南地域では、地元大企業の業績悪化により、中小の下請け工場の設備等に係る増改修工事の発注が減少している。当社のような零細企業では、従業員の高齢化や経費高もあり、利益が減少している。		

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪く	企業	金融業	定期的な取引先からの受注が2～3割減少している。また、人員整理等を行っている企業が多い。
		不動産業	急激な景気の落ち込み等の報道等にも慣れてきたのか、売買部門では、客の8割を20～30歳台が占め、若年層による底固い需要があり、成約結果は出ている。しかし、全般的にムードは良くない。一方、賃貸部門は安定した業績を維持しており、極端な悪化は見られないが、全体的にみると、法人契約が減少しており、個人契約も全体的にやや減少しており、成約件数及び客単価ともやや悪くなっている。
悪くなっている	家計	商店街代表者	景気は一段と冷え込んでように感じる。客数及び単価ともに減少しており、客は必要に迫られた商品だけを購入するという状況にある。
		スーパー	売上げ点数が減少している。
		家電販売店	来客者数は、3か月前と比較して明らかに減少傾向で推移しており、特に大型商品の成約率が低下傾向にある。また、今年は、例年とは異なり、シングル需要の動きが鈍い。
		自動車販売店	販売台数が前年比50%にまで減少している。
		寿司店	多くの飲食店が閉店していく状況の中、今までにはなかった仕事が回ってきたこともあったが、全体的に見て、仕事は年々暇になってきている。
		タクシー運転手	乗客数が減少した。
		タクシー運転手	売上額が減少している。
		タクシー運転手	売上額が減少している。
		タクシー運転手	ビジネスの足として、企業から積極的に利用を願いたいところであるが、このところは社用客は減少で推移している。また、現状を見ると、不安要素ばかりであり、消費行動が慎重になるのは当然のことである。
		タクシー運転手	タクシー料金を7%程度値上げしたが、売上げの減少に歯止めは掛からない。
	レジャー施設	来客者が少ない。不景気であることに加え、このところの天候不順が影響していると思われる。	
	企業	製造業(窯業・土石製品)	一部の低価格商品については売上げが好調であると言われているが、全体的に見ると悪くなっていると感じる。
		製造業(非鉄金属)	受注高について、3か月前と比較すると4.4%の減少となり、また、前年の同時期と比較すると4.6%強の減少となった。このため、週2日の一斉休業の実施に加え、1人当たりひと月に6日程度の休職日を設定し、ワークシェアリングを実施中である。一方、銀行の融資条件も厳しさを増しており(担保条件・金利条件・その他融資内容変更等)景気の底が見えない状況になってきた。
		建設業	昨年の9月15日のアメリカの大手証券会社の経営破綻、いわゆるリーマンショック以降、翌10月にある民間企業との発注契約3億円の工事が延期となり、続いて、11月には別の民間企業との発注契約1億2千万円の工事も延期となった。各企業とも、設備投資を抑制している。
人材派遣業		取引先の企業において、生産減による人員調整が活発になっている。	
求人広告		求人募集広告を出す企業が減少している。そのため、当社では、スタッフの勤務時間や勤務日数を減少させている。	
公共職業安定所		休業の相談や助成金の申請に訪れる事業所等が非常に多くなっている。	
学校就業関係者		求人数が急激に減少してきている。ある会社では、2月に15人の求人があるという話であったが、3月2日に5人に減少し、15日には「採用は見送る」との連絡があった。また、今年3月卒業の生徒のうち、入社早々の4月から3か月の自宅待機となってしまった者もいる。	
雇用相談員		今年に入ってから極端に悪化している。離職者に対する再就職相談件数が増加している一方で、求人数の減少が続いている。また、正社員であっても、勤務日数が削減(例えば3勤4休)され、アルバイトを採りに来所する人が多い。	

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良			
やや良く	企業	製造業（食料品）	大手の外食企業において、外国産の食料品の使用を抑え、国内産製品の使用に回帰してきているため、注文が大幅に増加している。
		製造業（化学工業）	実需要としては大きな変化はないが、顧客の在庫調整が進んできていることから、受注がやや上向いている。
		製造業（電気機械器具）	少しずつではあるが、作業者の増員を打診されるようになってきている。
変わらない	家計	ガソリンスタンド	ガソリン価格が落ち着いたとはいえ、消費者の節約志向は強まっている。満タン給油ではなく、定量、定額給油が多い。
		和食食堂	売上げは3か月前と比べて増加してはいないが、減少もしていない。悪くなると予想していたが意外であった。
		和食食堂	客数及び売上げが変わらない。
		ドライブイン	来客数及び売上げとも大きな変動はなく、景気の後退局面による影響はまだ受けていないと感じる。
	理・美容店	1月及び2月の売上げは減少したが、3月はそれと比べて売上げが増加している。全体的には変わらないと判断する。	
企業	農業関係者	より安全で安心な商品を求める消費者の声が大きくなっていること等から、消費者には固定的で安定的な購買意欲はあることがうかがえるが、客1人当たりの単価は上がっていない。客は生活費を削減しており、必要な商品は買うがそれ以外の商品を買わなくなっている。今後、店内の配置転換等を行なうなら、消費者が何を求めていくのか、探って行きたいと考えている。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	特売品やタイムサービスの値引き品であっても、必要な2、3品をだけ購入する客が増えた。
		スーパー	低価格商品、割引きセール等に敏感な客が増加しており、通常価格の商品の売上げ点数は減少の傾向にある。前年の同時期と比較して、3～5%の売上げの減少となっている。
		コンビニエンスストア	値引きセール等を実施すると、少なからず売上げが伸びる効果があったが、最近では値下げしただけでは、売上げにつながらないケースが増えてきている。安くても必要のない商品は買い控えようとする客の行動が顕著になってきている。
		コンビニエンスストア	タスポ効果で客数は増加しているものの、弁当を中心とするデイリー商品の売上げは厳しく、客単価が伸び悩んでいる。
		家電販売店	入店客数が前年の同時期の数を割り込んでおり、更に、売上げ及び単価も日増しに低下している。
		農産物直売所	景気の低迷により、客の財布のヒモが堅くなっている。当店についても、それほど客数は減少していないが、客単価が落ちている。
		和食食堂	来客数は多くなっているが、売上げは前年比の同時期と比べて伸び率が鈍くなっている。
		都市型ホテル	客の利用頻度及び客単価も低下している。
		タクシー運転手	売上げが7～10%減少している。
		タクシー運転手	昼間、買い物等の私用でタクシーを利用する一般客及び工業団地等へ向かうために利用するビジネス客、並びに、夜間、居酒屋等へ向かうために利用する客のいずれもが減少している。特に、買い物及び居酒屋等へ向かうために利用する客が激減しているように思う。
		ドライブイン	客数及び客単価ともに減少している。
		ゴルフ場	予約状況より判断して、やや悪くなっている。
		ゴルフ場	予約の動きが鈍い。特に土・日・祝日は、対前年の同時期と比較しても6割ほどであり、3か月前の予約の勢いは影を潜めている。
		パチンコ店	平日の客数の減少に加え、地域外からの客数が減少している。
		住宅販売会社	年が明けてからも、依然として住宅業界にとって厳しい状況が続いている。
企業	農業関係者	石油価格は安定してきたが、農薬、肥料、ダンボール等の価格は低下していない。その一方で、家計等においては、経済的に不安定であることから、特に果物等の食料品の購入を節約することが多いようである。その結果、経費率は高まり収入は減少している。	
	製造業（食料品）	客から受ける注文の数量が減少している。	
	製造業（印刷・同関連業）	あまりにも現在の政治が悪すぎる。かつては、強い指導力によって、景気の悪いときでも、国民が希望を失いそうな暗いニュースが多いときでも、政治家が先頭に立って、夢と希望を国民に与え、信念に基づき日本を引っ張ってくれた。そうしているうちに、世の中も明るく景気が良くなったものである。	
	製造業（窯業・土石製品）	景気の悪い部分だけを強調するかのような新聞、テレビ等のマスコミ報道が多いことの影響もあり、消費者は金を使わなくなっている。そうした中、仕事はストップしたままの状態が続いており、現状は厳しいものとなっている。	
	金融業	3か月前の年末時期においても企業の生産及び販売活動並びに個人の消費意欲は例年に比べ停滞の状況であったが、その現時点においてもその状況が回復する気配は見られない。むしろ、製造業関連においては更に生産が減少し、建設業関連においても新規工事は減少し、リフォーム工事の増加傾向が見られる等、3か月前よりも停滞状況は悪化している。	
	サービス業（コンサルタント業）	昨年の11月から急激な不況に見舞われている。全ての業種で仕事量が減少している。親子で自動車関係の仕事をしているある事業所では、昨年11月の初旬頃は日曜日にも休めないような忙しさであったが、年が明けてからは週2日分の仕事しかなく、アルバイト先を探しているというような状況である。また、ある住宅関連の工場では、受注量が減少し、工場の生産縮小で整理解雇を行ったところである。製造業を主な顧客としているある運送会社では、1月に、連続15日間、全く運ぶ物が無く、開店休業状態であった等、散々たる状況になっている。このままでは多くの事業所が廃業や倒産に追い込まれてしまう。国や県といった行政も何とかこの状況を早く打破するような政策を展開して欲しいものである。	

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	スーパー	客は買いたい商品を買うというのではなく、必要な商品のみを買うという状況になっている。
		スーパー	客1人当たりの売上げ点数が減少している。安売りの目玉商品や値引商品を購入する客が多いため、単価が低下している。
		衣料品販売店	アメリカの金融不安、日本の政治の混迷、年金問題等、将来への明るい展望がないので、個人消費が激減している。売上げを対前年の同時期と比べると80%台に突入し、経営危機を迎えようとしている。
		自動車販売店	連日のように景気の悪さを伝えるマスコミ報道の影響もあり、客の購買意欲は低下している。来店客が少なく、売れ行きは3か前より悪い。
		専門スーパー	売上げ点数の減少が顕著に表われている。
		和食レストラン、割烹	客、同業者、業者の誰と話しをしても、景気が悪いことばかりが話題となる。テレビやラジオ等のマスコミ報道の影響もあると思うが、人と会うと景気の話にしかならない。このようなことは、商売を始めて22年になるが、初めてである。
		多目的ホール	客数は前年の同時期と同程度であるが、客単価は前年の同時期と比べ低下している。また、予約の入っていた法人等の会合がキャンセルとなるケースが出てきた。
		旅行代理店	毎年、3月から4月はオフシーズンとなるが、今年に関しては個人客の申し込み件数も少なく、大変厳しい状況である。
		タクシー運転手	朝の通勤時間を過ぎると、途端に乗客が少なくなり、客待ちの時間が長くなる。また、夜についても、飲食店へ乗客が少なくなっている。
		タクシー運転手	景気の状態が悪すぎる。
		ゲームセンター	集客自体が減少している。
		レジャー施設	ビジネス関係の客が減少した。
		理・美容店	「週休3日」、「週休4日」という言葉を当たり前のように耳にする。
		クリーニング店	例年になくほど、売上げが減少している。
	建築設計事務所	設計依頼の件数は少なくなり、また、大型物件もなく、先の見通しが見えない状況である。土地の価格が低下しているが、土地は動かなくなっている。これは、先の見通しが見えない状況であるが故のことであると思う。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	地元の工業団地において、1970年代に進出してきた企業の撤退や生産規模の縮小等が続き、それに伴い、印刷関連の仕事も減少している。さらに、単価の下落が止まらず、採算割れ寸前の状態が続いている。
		製造業（窯業・土石製品）	現時点では、当社工場は忙しく稼働している。しかし、これは中国製品に問題が生じたことによる、いわば「敵失」を要因とするものであり、当社又は当業界に起因するものではないのが残念である。しかし、競争相手の敵失を当社の利益に活用できるよう、全力で仕事に取り組んでいる。もし、中国製品に問題が生じなければ、注文が入らないというのが実態である。現在は、それは逆に中国から墓石製品は、ほとんど完成品で輸入されてくるにもかかわらず、注文は入らない。
		製造業（金属製品）	現在の”不景気”に加え、棚卸しの時期でもあり、受注の予測が難しい状況である。
		製造業（一般機械器具）	親会社では、週3日の休業、仕事量は40%減となっている。
		建設業	不景気で全ての業種に元気がない。
運輸業（道路貨物運送業）		自動車関連の製造業は生産規模を減少している。また、建設関係も悪い。	
不動産業		以前と比べて、新築の賃貸物件の入居決定に時間が掛かるようになってきている。その一方で、賃料が安い物件に借り替える客が増加している。また、法人の需要がめっきりと少なくなっており、特に、人材派遣会社からの解約が増加している。	
雇用	求人広告	例年であれば、顧客から3月のパート募集の広告依頼がくる時期であるが、今年は「募集がない」又は「人が余っている」とのことである。	
	公共職業安定所	景気の悪化により、求人数が大きく減少している。特に、製造業では、受注の落ち込みにより雇用調整の動きが拡大し、求人数が大幅に減少している。	
	学校就業関係者	例年であれば、3月には卒業生の就職状況はほぼ100%となるが、今年度は3名が就職先未定の状況であり、求人数は激減している。	
	就職相談員	派遣社員や契約社員の雇止めや正社員の一時帰休等、就業できない人が多くなっている。	
	人材派遣業	昨年12月以降、企業等からの求人が全くなり、仕事が全くない状況である。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	スナック	3か月後は、初夏を迎え、また、ボーナスの時期でもあるので、多くの人が外出したくなるのではないか思う。
		観光型ホテル	新緑の季節となり、また、ゴールデンウオークもあるため、観光客の増加に期待がもてる。
やや良	家計	観光型ホテル	日帰り及び宿泊予約ともに、前年同時期と比較して予約件数が増加している。
	企業	水産業関係者	常磐沖より大洗沖に至る海域は親潮系水の張出しが見られ、今後、この潮に乗って大望のオキアミ、イカナゴ等の漁が大いに期待できる。なお、現在、少しづつ漁獲されてきている。水産業界は漁があればそれなりに景気が良くなり、あまり陸上の景気に左右されない。3月～6月まで親潮系の魚に大いに期待ができる。
変わらない	家計	コンビニエンスストア	政治や経済の現状から判断して、プラスとなるような要因はないので、変化はないと思う。生活支援定額給付金の支給もあるが、消費の刺激には直結しないように思う。消費者の財布のヒモは、依然として堅いままであると思う。現在の経済状況が変化しない限り、主力客層である作業員等の来店が増加が見込めないで、売上げ及び客数の回復は難しいと思う。
		小売業（靴製品）	低迷の度合いは変わらないと思う。
		居酒屋	良くなる理由が見当たらず、状況は変わらないと思う。
		和食食堂	現在と変わらず消費の冷え込みは続いていると思う。何か新しいメニュー等、アイデアを考え、集客アップを狙いたい。
		タクシー運転手	景気が良くなる要素が見当たらないので良くなるとは思えない。ただ、今が景気の底であると考えているので、悪くなるとも思えない。
		ドライブイン	生活支援定額給付金などがどこまで恩恵をもたらしてくれるかは分からないが、全体で見ると、売上げも前年の同時期と同程度で、それより悪くはならないようにと思う。
		理・美容店	景気回復の見通しが全くたないため、企業城下町である地元の商業は大打撃である。
	企業	林業関係者	年度末決算を迎えるので、木材の動きは変わらないと思う。多くの産業で収益確保が厳しい状況となっており、住宅着工件数の低迷が続くと思う。
		製造業（食料品）	消費者の低価格商品の購買傾向は続くであろうが、売上げが大きく変化するような傾向は見られないと思われる。
		製造業（輸送用機械器具）	国内の自動車メーカーは在庫の消化も見えたことから、2009年度全体の生産計画を発表し、昨年の70～85%程度まで回復させる意気込みを公表した。さらに、環境対応のハイブリット・ディーゼル車に対し優遇税制も検討されているが、全業種ともに、いわば「不況和音」ともいべき将来が見通せない中で、ユーザーの購買意欲をどこまで高めることができ、販売につなぐことができるかがポイントとなると思う。
雇用	求人広告	4月までは、現在の状況を保つように思うが、それ以降は更に悪化するおそれもあると思う。	
	学校就業関係者	現時点では判断できない。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	マスコミ報道等の影響もあると思うが、節約ムードが漂い、周辺企業に勤める客の情報から悪化要素ばかりを聞く。
		衣料品販売店	今後も中心に売れるのは低価格商品であると思われるため、売上額が増えることが難しい。
		自動車販売店	今、多数のパートや契約社員等が時短や解雇を受けているが、それによる収入の減少が、直接的に消費に影響を及ぼしてくるのは来月以降になると思う。したがって、悪くなることはあっても、良くなるとは思えない。
		小売業（水産物）	県北地区は工場が多いので、4月以降は失業者も増加し、当店の景気にもその影響がでるのではないかと感じている。
		レストラン	客の様子を見ると、財布のヒモを堅く締めていることがうかがえるので、やや悪くなっていると思う。
		居酒屋	見通しが悪い。
		旅行代理店	団体旅行の見合わせが出てきている。
		パチンコ店	3月末の雇用面の不安からくる景気の落ち込みが予想される。
		レジャー施設	春の遠足の予約や問合わせが、例年より出遅れており、件数も少ない。
	理・美容店	周囲の不況感を受けて家計を守るために、顧客の来店頻度の減少が心配される。	
企業	製造業（一般機械器具）	今後も雇用の状況が良くなる要因が見当たらない。	
	製造業（電気機械器具）	新年度となる4月になれば、3月よりも生産計画はあるため、多少は回復の兆しは見られるものの、厳しい状況のまま推移することには変わりはない。また、大企業において、外注せずに自社内で製造する内作化が進んでいるため、中小企業の状況は更に厳しいものとなるのが予想される。	
	金融業	地元大企業の関連企業の業績悪化により、それらの企業からの受注に依存している下請け業者や運送業者等が、今後の事業展開に不安を感じている。	
雇用	求人開拓員	工場に訪問しても、「今後は縮小経営で耐える」、「雇用を増加させるような改善策が見つからない」というような話題が多く、雇用情勢はますます悪くなると思う。	

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	消費マインドの低下及び株価下落による含み減及び消費後退が見込まれる。
		スーパー	100年に1度と言われる不況の中、リストラ等が進み、ますます売れ行きが悪くなると思う。
		スーパー	これからジリジリと悪化すると思う。今はまだ入り口の段階に過ぎないのではないか。
		衣料品販売店	仕入の買掛金の支払いが負担になってくると、新たな仕入を控え、在庫で商売をすることになるので、売上げは減少する。
		農産物直売所	景気の悪化が続くと思われる。
		ガソリンスタンド	地元の工場は週休3日が当たり前で、ひどいところでは週2日の操業であり、ほとんど生産が止まっているような状態となっており、4月以降の見通しは立っていないという。このような状況が、我々の物販業にも大きく影響してくると思う。
		観光型ホテル	将来の見通しが立たないため、全てのことについて守りの姿勢を取らざるを得ない。
		タクシー運転手	日本全体では良くなる話がない。これからどの程度悪くなるのか、予想がつかない。
		タクシー運転手	工場等におけるリストラや異動等で利用客は大幅に減少すると思う。
		タクシー運転手	先行きの景気は依然不透明で、良くなる要素がない。客からも明るい話は聞かない。今後は、もっと景気が悪くなるように思う。
		ゴルフ場	経済情勢の悪化の波が、近隣企業にも及んできており、また、飲食業の人の動きも変化しつつあると聞いているので、この先の景気がどのようになるのか、不安を感じている。
		ゴルフ場	今年の春闘での攻防の影響を受け、消費者は生活防衛第一義が掲げられ、サービス業界での消費の期待はますます厳しくなると思う。また、5月時点の予約状況のペースを見ても、例年に比べ落ち込んでいる。
	クリーニング店	特に、地元大企業の景気の悪化の影響で、消費者も更に節約志向が高まり、悪くなると思う。	
	住宅販売会社	今回の政府の景気対策の効果はすぐには出てこないと思う。	
	企業	製造業（電気機械器具）	昨年9月以降、受注が得られない状況が深刻な状況にあるが、今後、現在よりも更に悪化するものと思われる。
		製造業（電気機械器具）	現状よりも、2～3割程度、落ち込むと見込んでいる。当然ではあるが経費（特に人件費）の削減に努めており、休日出勤、残業等の抑制を実施している。
		製造業（電気機械器具）	鉄鋼メーカーの減産の継続及び主要取引先の計画から判断しても、「ものづくり」の業界にとっては厳しい状況が続くものと思われる。4月には半期に1度の協定単価の見直しの時期を迎えることもあり、良くて現状維持か、又は悪い状況に進行するものと思われる。
		製造業（電気機械器具）	100%の作業量を確保することができない。
		製造業（電気機械器具）	100年に1度といわれる大不況、株安、大手企業の赤字決算等、悪い話ばかりで、今後3か月どころか半年、1年先も分からない。
		建設業	このところ、「仕事の予定が立たない」という話をよく耳にするようになってきていることから判断して、3か月後は、更に悪くなると思う。
建設業		3月には公共事業の工期が終了し、その後は一時的に仕事が少し減少することになるので、対応していくことが大変になると思う。ただ、政治や経済の今後の動向によっては、民間企業や消費者が動向も変わってくる可能性もあると思う。	
情報通信業（情報サービス業）		来年度の予算を縮小する企業が増加している。特に、来年度上期の商談が少ない。	
雇用	不動産業	雇用不安やそれに伴う企業再編による転勤等への不安が、年度末にピークになると思う。	
	人材派遣業	見通しは全く立たない。	
	公共職業安定所	世界経済危機の影響による景気の低迷により、製造業、とりわけ受注量の減少の大きい自動車関連製品を製造している事業所からの求人の減少幅が大きい。	

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良	家計	ゴルフ場	ゴルフシーズンに入るので、予約申込み件数も増加傾向にある。また、季節的にも良くなってくるので、少しは回復するのではないかと希望的に予測する。
		理・美容店	6月頃は、梅雨時であるため髪を気に掛ける人多くなり、また結婚式等が多くなると予想されるので、やや良くなると思う。
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	原材料の単価の引き下げや、燃料価格の下落に伴い、貨物の流通量が若干増加すると思われる。
変わらない	家計	百貨店、総合スーパー	年明け以降、株価の更なる下落や政局不安等が続いており、消費意識の回復にはまだ時間が掛かると思われる。
		スーパー	円高還元、小麦粉の値下げ等の明るい話題はあるが、商品の売価が低下するまでには至っていない。
		スーパー	景気回復の期待はできない。今のままの状況であるとすれば、客は消費よりも貯蓄にお金を回すであろう。
		スーパー	生活支援定額給付金の支給もあるが、大きな変化は無いと思う。
		ファミリーレストラン	良くなるような原因が見当たらない。
		都市型ホテル	3か月後の予約状況は前年同時期より少なく、今後、増加を望んでいるが、期待はできないように思う。客との会話からも、景気が良くなる話を聞くことはない。
		旅行代理店	4月以降の燃油サーチャージの大幅な引き下げで、海外旅行の先行き受注は良くなっているが、法人及び一般消費者の購買意欲は、相変わらず低迷している。
		タクシー運転手	客との会話からも景気の良い話は聞かなくてこない。今後も景気は良くないと思う。
		ドライブイン	ツアーを企画する観光会社も安価であることを武器として集客していることから、食事も当店で最も安価な1,050円の団体食が多く出る。人件費やその他の経費を考えると、これから先も大変だ。なんとか、多くの方に来店していただきたいと思う。
		観光名所	例年と比べ、3か月先の予約状況は若干鈍い。
		レジャー施設	北関東自動車道と東北自動車道の連結による栃木県からの来場者数の増加傾向は当分は続くと思うが、それ以外に好転するような要因は見当たらない。
	住宅販売会社	3か月では何も変わらない。	
企業	サービス業（コンサルト業）	1月、2月ほどではないが、引き続き今の悪い状況が続くと思われる。特に販売の現場では、消費者が購入しなくなったことを実感している。消費者は、購入金額を抑えたり、次の購入までの期間を長くする等しており、このような買い控えの傾向はしばらく続くと思う。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	新年度を迎え、現在の景気悪化の状況を反映してなるべくお金を使わないようになり、状況は更に厳しいものになると思う。
		商店街代表者	中心市街地にあった企業、事業所の移転、撤退やリストラが進み、地元の人口が減少していることを感じる。
		百貨店、総合スーパー	現状を見ると、商品を手にとって、よく考えた上で購入する客が目立ってきていることを考えると、今後、景気が上向きとなったとしても、客の財布のヒモは堅いままであると思う。
		自動車販売店	先行きは見えない。消費はますます鈍くなるように思う。
		レストラン	まだまだ景気回復の兆しが見えていない。
		都市型ホテル	単価が減少傾向であり、今後もこの傾向は続くと思われる。
		タクシー運転手	3か月前は年末の時期であったにもかかわらず過去にない最悪の動きであったが、年始からは更に動きがなくなり、この3月は観梅客に大きな期待を寄せているところであるが、全くと言っていいほど盛り上がりが見られない。これらのことから、3か月先はこれよりも更に悪くなると思う。改善されるような材料が見当たらない。
		タクシー運転手	生活支援定額給付金も決まり、これに期待しているが、不安もある。
		ドライブイン	現状から考えると、3か月後について前年同時期の売上げ実績及び来店客数を確保することは厳しい。何とか販売促進を行いながら、好転するよう努力していきたい。
		パチンコ店	景気対策を行っても、すぐに効果が表れるとは思えない。
		パチンコ店	年度末を越えて、新卒者等の就職状況が落ち着いても、まだまだ今のリストラ等の状況が良くなるとは思えない。消費支出が、一段と落ちるのではないかとと思う。
	レジャー施設	利用者は实体经济の更なる悪化が見込まれることに不安感を抱いており、そのことが利用者の「遊び」に対する周囲への遠慮感を増大させ、当施設の利用回数は更に減少すると思う。	
理・美容店	客の収入が減少し、来店回数が更に減少すると思う。		
企業	農業関係者	これから肥料の需要期を迎えるが、肥料価格が50%も上昇しており、生産費の増加による経営不安が懸念される。	
	製造業（食料品）	大手企業等のリストラが増加している現状からみると、個人消費の減少が進み、大きな収益が見込めないと思う。	
	製造業（印刷・同関連業）	まだまだ「大物」と呼べるような受注がなく、入金等に力強さが感じられない。	
	製造業（精密機械器具）	現時点での営業の引き合い情報や客からの資料請求件数等から予測すると、今後、更に受注量が減少することも考えられる。	
	建設業	国の景気対策に期待できない。	

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪く	企業	情報通信業（情報サービス業）	競争が激しく、特に価格面において苦慮することが考えられ、景況感も、余程の好材料がなければ一層悪化するのではないか。設備投資は言うまでもなく、人件費を含めた経費削減の動きがますます強まり、個人消費もしばらくは低空飛行のまま推移すると思われる。今のところ、景気向上につながるような材料は見当たらない。
		不動産業	企業の雇用問題等に対する不安要素があり、消費者の消費に対する積極性が弱くなることが考えられる。
	雇用	学校就業関係者	現時点では採用予定数は未定であるとする企業が多い。それらの企業の多くが、今後、前年度に比べて採用予定数の減少又は今年度新規採用を見送るのではないかと予想している。
悪くなっている	家計	スーパー	雇用不安や賃金低下が続くと思われ、良くなるとは思えない。
		専門スーパー	マスコミ報道が景気の悪化を煽りすぎているように思う。
		専門スーパー	新年度になると、給料が減額となる企業等も多いと思う。このことは、直接的に消費動向に跳ね返るので、買い控えの傾向が更に進むように思う。
		観光型ホテル	前年同時期と比べ、予約状況が悪い。
		タクシー運転手	客との会話は悲観的な話ばかりである。
		建築設計事務所	この不況に加え、住宅瑕疵担保履行法が今年の10月1日から施行されることから、しばらくはこの混乱が続く、現在のような状態が続くと思われる。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	良くなる要素が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	不動産業界の低迷及び個人の買い控えの傾向は今後も続くと思われる。
		製造業（金属製品）	この状況は当分の間続き、ゼネコン各社の激しい競争による安値受注の皺寄せを受けるように思う。
		製造業（一般機械器具）	今よりも少し悪くなると思う。特に、3月、4月はひどくなるのではないかと。
		金融業	顧客との会話のほとんどが「景気悪化」に関するもので占められている。また、駅前にある大型店舗の撤退の噂があることから、客足が更に遠のくであろうとの認識が顧客の間に広がっている。心理効果による景気悪化が懸念される。
		サービス業（広告業）	今後良くなるような要素がゼロである。年度末に倒産する企業がどのくらい出てくるかが話題になっている。
	雇用	人材派遣業	3か月後の人員削減の予定もすでに決定している。
		求人広告	今後、更に悪化する傾向にあると思う。定期的に人員確保を行ってきた企業及び繁忙期に募集を行ってきた企業のほとんどが求人募集広告の掲載を見合わせている。
		公共職業安定所	世界的な経済不安による景気低迷がいつまで続くのか、先行きが見えないことから、今後も事態は深刻である。また、連日のように、非正規雇用の雇い止め等の景気悪化のニュースが報道されている中で、経済不安から個人の購買意欲の低下を招き、それが負の連鎖となって、今後、製造業以外の業種へも波及していくことが懸念される。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良			
やや良	家計	日本料理店	生活支援定額給付金が支給されれば全体的に少し良くなるのではないだろうか。
	企業	水産業関係者	大きな変化はないと思うが、漁獲量の増加を期待したい。
製造業（食料品）		円高差益や燃料費の低下が、多少なりとも原材料費（製品原価）の低下に反映されてきてよい時期だと思う。	
変わらない	家計	商店街代表者	マスコミ等の報道に左右されているが、現実の経済は落ち込むところまで落ち込んでおり、その現状が維持されるのではないかと思う。ただ、小規模事業所においては、高齢の経営者が多く、後継者の問題等から廃業が多くなるおそれもあるように思う。
		商店街代表者	近隣にある企業関係について、景気が良くなるような話を聞くこともなく、このままの状況が続くと思う。
		スーパー	単品では値上げする商品もあるが、一時期の原油高で値上げした商品が値下りしてきている。全体的にデフレーションの状況であることは変わらないと思う。
		スーパー	当分、仕事量が増加する見込みもなく、変わらないと思う。
		小売業（酒類）	良くなる材料も悪くなる材料も見当たらない。
		衣料品販売店	客数はやや伸びているが、1人当りの単価が低いので、全体的に伸びている傾向にあるとはいえない。支給の決定した生活支援定額給付金がどのように影響してくるかにもよると思う。
		観光名所	4月以降は、当地への観光客の増加を期待してはいるものの、現状から見て難しいように思う。したがって、客足は昨年とあまり変わらないと思う。
		住宅販売会社	半年先以降は分からないが、3か月先ではまだ変化が見られないと思う。
	企業	農業関係者	農業資材や肥料等が高騰している一方で、農作物の市場価格は低価格で推移しており、一向に先が見えない。
		製造業（食料品）	不況を煽るかのようなマスコミ報道や政治への不安等により、消費者は「景気が良くならない」という心理状況にあるように思う。
		製造業（飼料）	現在のところ飼料価格は値下り傾向にあり、従来よりは畜産農家にも余裕が出てきたようであるが、この先は分からないので、変わらないと判断する。
		製造業（化学工業）	当面は現状が続くと思う。
		製造業（化学工業）	3月の決算期を過ぎれば多少は動き出すのではないかという期待はあるが、ひと月先の見通しすら立たないという状況が続いていることから、低稼働による生産維持がせいぜいではないかと思う。
		運輸業（道路貨物運送業）	顧客の事業計画等から見て、現在の悪い状況が良くなる方向にあるとは思えない。
不動産業		地元の電子部品系の工場等で働く派遣社員が解雇されたという話を聞いた。このことから、賃貸物件の動きが悪化する傾向は続くと思うので、景気は変わらない。	
雇用	民間職業紹介業	現状から考えると、不況は変わらずに続き、不況が続く限り雇用は好転はしないと思う。また、政府の雇用対策には限界があり、なかなか先行きが見えるようにならないことが何とも厳しい。	
	学校就業関係者	景気が良くなる雰囲気が見られず、今月と同様に良くないと思う。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	技術生産立国である日本は、列島改造論等により、企業の地域分散も進み、過剰人口も抱えてはおらず、それら点では良い状況にあるといえる。今後、関税等により輸入の調整を行い、国内産業を更に充実していくことができれば、国民の質も良くなり、ロボット、コンピュータ化の時代に適応し、国際情勢にも惑わされていないモデル国家が築くことができると思う。このように、豊かで明るい未来が身近にあると考えている。しかし、しばらくの間は、資源の高騰や産業の空洞化の悪影響を受けた状況が続くと思う。
		コンビニエンスストア	担当エリア周辺の企業から、3月以降に工場の停止や派遣社員の削減等が実施されるとの情報が聞こえてくる。また、特に食品関係の業種において、売上げ等の数値が悪化する傾向にあることから考えると、そう簡単には消費は回復しないと思う。
		小売業（書店）	前年の同時期の売上げを下回っている状態が続いており、この先の底が見えない。
		洋食食堂	景気の先行きに対する不安が消費者の不安を招いていると思う。当地には企業や工場等の立地はないが、ジワジワとそんな不安の影響が出ていると思う。
		割烹料理店	市場に仕入れに行くと、他店の経営者とよく話しをするが、最近の話は題景気の悪化に関するものばかりである。また、仕入れのため市場に訪れる客も減少したように思う。
		タクシー運転手	これ以上悪くなると困るが、実際には、もう少し悪くなると思う。飲食店関係の人達のボヤキもよく聞く。この「不況は簡単には回復はできない」と話す客が多い。
		タクシー運転手	最近では客数及び売上げともに減少しており、また、客との会話からも、良くなる話はない。これらのことから考えて、景気はやや悪くなっていると思う。
		ドライブイン	現在の不況が改善されない限り、前向きな見通しを立てることはできない。
		パチンコ店	ゴールデンウィーク前後までは話題機種の登場が予定されているので、安定した集客が見込めるが、それが過ぎれば、機械購入費の反動が出てくると思う。業界全体で落ち込むことが予想される。
		クリーニング店	暖かくなってくるので、人の出入りは多くなるが、客単価や利益率は減少傾向が続くと思う。また、スーツ等も汚れが少ない場合は、少し長く着て料金が安くなるキャンペーン期間を待ってから品物を出す客が増加している。
住宅販売会社	しっかりとした景気対策がなされていない。景気に対するが大きく、良くなる兆しは見えない。		
企業	金融業	現在の世界的不況は様々な業種に連鎖的な業績悪化をもたらしており、顧客からも「利益確保が難しい」との声を多く。この状況から脱却は容易ではないと思う。	
	保険業	銀行からの融資が困難になってきている。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	売上げ点数, 単価ともに厳しい状況であると思う。
		自動車販売店	金融不安や雇用不安等の状況が更になが悪くなっていると思う。
		小売業 (菓子販売店)	ますます, 客の財布のヒモは固くなると思う。
		小売業 (薬品店)	景気が回復するような材料がない。失業者は増加し, 消費も更に悪くなるであろう。
		小売業 (金物店)	著しい早さで景気悪化が進んでいるため, 小さな商店が立ち行かなくなっている。以前は利益のあった商売でも, 今は競争相手が多く, なかなか利益を出すことが難しくなっている。更には, 経営を継続できなくなった商店も多くなっている。また, 地元には輸出企業が多いが, 4月以降の見通しが立たないというところが多い。製品在庫が増加しており, 生産調整に入ったところもあるそうである。このような傾向は, 今後はますます加速すると思う。
		観光型ホテル	5~10年先ならまだしも, 3か月で良くなるとは思えない。
		パチンコ店	年度が代わるのを機に, リストラや賃金カットをする企業等が増加して, 雇用不安がより一層深刻になると思う。
		理・美容店	良くなる理由が見当たらない。
		クリーニング店	消費の減少傾向が続いていることから, 3か月で良くなるとは思えない。
		室内装飾業	これだけ雇用状況が悪化している現状から判断して, 3か月後に景気が上向くとは考えられない。
	企業	製造業 (印刷・同関連業)	良くなるという予想をすることができるとは思えない。
		製造業 (鉄鋼業)	今の現状が続けば, 悪化は続くと思う。
		建設業	マスコミが騒ぎすぎである。
		運輸業 (道路貨物運送業)	新年度を迎えても, 今のような状況が6月まで続くと思われる。その上, 消費者マインドが更に低下して景気悪化のスパイラルに陥る危険もあると思う。
		サービス業	顧客に次年度予算を確認したところ, 「著しく削減が見込まれる」という回答があり, 景気は悪くなると思う。
	雇用	人材派遣業	悪くなることはあっても, 良くなることはないと思う。今後, 景気が更に悪化することになれば, 雇用と生活への不安感がより一層増大するのではないかと懸念している。
		公共職業安定所	幅広い業種の企業で業績が大幅に悪化しており, その回復時期については, 先行きが不透明であるため, 予想ができない。当所が「雇用調整助成金」(国が企業に従業員の休業手当を助成する制度)について説明を行った事業所の数は, 3か月前の5倍以上となっており, また, 問い合わせも多い。今後も, この制度を利用する企業の数が増加する傾向は続くと思う。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	農産物直売所	客数及び客単価も増加しているの、良くなると思う。
やや良くなる	家計	スーパー	3～4月中に、ほとんどの地域で生活支援定額給付金の支給がなされる予定であるので、今後、消費が向上する可能性が高いと思う。
		洋食食堂	近隣で映画やドラマの撮影があり、弁当等の配達に依頼が少しずつ増加している。また、これからの時期はイベント等も増加するので、少しは期待ができそうである。
	企業	製造業（食料品）	桜の花見の時期からは、荷動が良くなると思う。
		金融業	在庫調整が一巡し、生産の拡大が見込まれる。また、政府の政策も具体化してきたことから、景気はやや良くなっていると思う。
変わらない	家計	コンビニエンスストア	雇用や所得については、今後、一層厳しくなることが予想される。したがって、現状よりも更に余分な商品を購入しなくなり、客単価が悪化する可能性が高い。しかし、当店では、ファストフード等の景気の影響を受け難い商品を中心に切り抜けており、更に客のニーズを捉えた品揃えを行っていくことができれば、売上げが減少することはないと思う。
		コンビニエンスストア	客の財布のヒモは固くなっているが、これを打破し、客の購買意欲を高めるような情報や環境の変化がなく、現状のまま変わらないと思う。
		専門スーパー	景気が良くなるような理由が見当たらない。生活支援定額給付金の支給が決定したが、効果はないと思う。政府のただの無駄遣いであり、給付金によって景気は変わると思えない。
		都市型ホテル	宴会予約の状況から見て、現在の状況とあまり変わらないように思われる。
		ゴルフ場	季節的にはオンシーズンが到来するが、現状から考えると、差し引きして変わらないと思う。
		理・美容店	アメリカ経済の回復や、政府への不信感等の問題は3か月で到底変わると思えない。したがって、消費動向が上向きになるとは考え難く、変わらないと判断する。
		建築設計事務所	知り合いの公認会計士の話を聞いても、今後には期待はできない。
		住宅販売会社	政治がこのような状況では何も変わらないであろう。
	企業	製造業（食料品）	食材等の原材料価格は低下してきており、明るい兆しはあるものの、販売数（受注数）が落ち込んできており、良くなるまでは予測できない。
		製造業（食料品）	当地域は公務員が多いということもあり、景気は低迷であるが変わらないと思う。
		製造業（食料品）	生活支援定額給付金の支給が決定したことにより、景気は下げ止まるのではないかなと思う。
		製造業（印刷・同関連業）	今が最低だと思うが、この景気がこのまま続くと思う。
		建設業	今後3か月で景気が回復するような要因はない。
		運輸業（倉庫業）	景気が良くなる要因が見当たらず、現在の状態が続くと思われる。
雇用	求人広告	今年に入って以降、現状は下り坂が続いており、この傾向は今後も同様であると思う。物流関係が動くようにならないければ、すぐには回復しないと思う。	
やや悪くなる	家計	スーパー	競合している大手スーパーの相次ぐ値下げにより、競争が激化しており、今後、現状を維持していくことは難しくなると思う。
		スーパー	明るい兆しが見えない。
		家電販売店	成約率や客単価の下落が継続していることから、客の財布のヒモがそう簡単には緩まることはないと思う。
		農産物直売所	生活支援定額給付金の支給が決定したが、支給開始が遅れる市町村もあり、今後3か月という期間で考えた場合、果たして即効性があるのか疑問が残る。雇用不安が解消されない限り、景気の回復は望めないだろう。
		ガソリンスタンド	今、どのような対策で雇用の問題を解決しなければならないかが一番の問題である。
		都市型ホテル	予約が多少減少していることから、やや悪くなっていると判断する。
		旅行代理店	現在の景気状況から見て、楽観視できないような状況が予測される。
		タクシー運転手	景気が回復する見込みがない。
		タクシー運転手	売上げが減少しており、回復する見込みがない。
		タクシー運転手	現状の悪い状況が、更に悪化するように思う。
	ゴルフ場	3か月先までの予約状況が悪い。心理的な面もあると思うが、「大型のコンペは開催するのが難しい」との声が多い。	
パチンコ店	まったく上昇する見込みがない。		
企業	製造業（窯業・土石製品）	原材料価格が高止まりしているが、競争が激しいため、販売価格への転嫁が難しく、今後の原材料価格の動向が大きな影響を与える。	
	製造業（非鉄金属）	主力受注先の計画では、モデルチェンジした自動車の発売が5月に予定されているため、現時点では増産基調の計画であるが、それでも対前年の同時期と比べると34%強の受注減であり、より一層の経費削減に注力せざるを得ない状況にある。	
	製造業（一般機械器具）	良くなる要因が、現在のところ見当たらない。	
	不動産業	全世界的な不況ムードが、消費者の心理に影響を与え、大型消費財の購入について警戒感が強いという現状から判断して、やや悪くなってきていると思う。	

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪	雇用	学校就業関係者	様々な企業を訪問して求人への依頼を行っているが、求人を控えている企業が多く見られる。また、現在、貰っている求人についても不安を感じている。このような状況からやや悪くなると思う。
		雇用相談員	一部内需型企業において、増産しているものの、多くの企業で減産傾向にあり、先が見えないとの不安の声を聞く。一般消費者の立場であっても、雇用不安であれば、当面消費拡大には動かず、今後3か月間も景気が良くなる兆候は見えない。
悪くなっている	家計	商店街代表者	正規雇用者までリストラされる等、マスコミからは、社会不安が増大するようなニュースが連日のよう報道されおり、景気は、いまだに底の見えない状況にある。客や身近な人達からも、不況に伴う不安感を耳にするようになってきている。
		自動車販売店	景気の先行きは不透明であり、自動車の買い控えは更に進むと思う。
		洋食食堂	近隣のファミリーレストラン、和食食堂、スーパーが2月で閉店した。このような現状から考えて悪くなると思う。
		寿司店	良くなる材料が見当たらない。
		旅行代理店	国や県の景気・雇用対策には期待が持てない。景気はますます悪化すると思う。特に、レジャー客は減少する一方であると思う。
		タクシー運転手	売上げが回復する要素が見当たらない。
		タクシー運転手	個人、企業ともに安定した収入、利益が望めない現状から判断して、沈滞ムードはより一層の深刻さを増すように思う。
		レジャー施設	来客者数は景気次第で変動するが、悪くなると思う。
	理・美容店	決算の時期であるが、当商店街は「低迷」の言葉のみである。「ピンチの時こそチャンスである」と捉えてアイディア等出し合って、乗り切らなければならないが、大変困難である。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	政治が安定しないと何事も進まないの、これからの日本の進むべきグランドデザイン（全体構想）を描くことができるリーダーが必要であると思う。今のままの政治的混乱・不信が続くと、ますます経済は停滞するどころか奈落の底に落とされてしまうように思う。また、生活支援定額給付金を実施されても、景気が全体的に良くなるとはとても思えない。
		建設業	各企業からは設備投資の話題すら聞かえてこない。例えば、壁が破れていても、ガムテープを貼って応急処置をしておくというような状況である。また、中小企業の建設業者の中には、2人～5人正社員を解雇したところもある。大手企業を含めると、国内で50万人～100万人単位の失業者が出るのではないかと。
		建設業（設備工事業）	4月以降の仕事引合い及び見積り等がほとんどないため、仕事量の減少は明らかで、景気は悪くなると思う。
		建設業（設備工事業）	一般工務店とハウスメーカーとの価格競争が激化していることから、当社のような設備工事業者は、工事単価の切下げを要求され、利益減少方向になると思う。また、今後、資材の値上りも予想され経費が高くなるおそれがある。さらに、官公庁発注工事及び一般客の発注工事ともに減少に向かうと思われる。
	雇用	人材派遣業	取引先企業は各社とも、今後の生産数量等の予測はできない様子である。
公共職業安定所		多くの事業所から休業の相談や「雇用調整助成金」の申請がなされているが、この状況はしばらく続くと思われる。	

(5) 県西地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良			
やや良く	家計	商店街代表者	生活支援定額給付金が給付されれば、多少は良くなるのではないかと思います。
		クリーニング店	これから衣替えの時期を迎えるが、気候が良くなり、品物が多く出てくれることに期待する。
	企業	農業関係者	消費者の外国産野菜離れもあり、国産野菜に目が向けられ始めている。今後は、国産野菜の消費が進むであろうと希望も含めて予想している。したがって、農業部門は少しは良くなると思う。
		製造業（食料品）	円高差益により輸入原材料が安価に入手できるようになるため。
		製造業（化学工業）	客の在庫調整が終わり、実需要に近いところまでは回復すると思う。
製造業（電気機械器具）	来年度以降も、作業者の増員を計画する職場が増えてきている。		
変わらない	家計	商店街代表者	マスコミ報道の影響は大きいと思う。客の財布のヒモは、確実に堅くなっている。しかし、当店は食料品店なので、どうにか前年同時期並みの売上げにはなるのではないかと期待している。
		コンビニエンスストア	将来に対する不安から、消費を節約する傾向は続くとも予測する。しかし、物欲がなくなるわけではないので、価値のある商品を通して、潜在的なニーズを喚起して消費を促して行きたい。
		家電販売店	当社ではE T C も取り扱っているが、3月下旬より実施される高送料金値下げによる相乗効果はかなりのもので、これまで以上に土・日の集客が上がる見込みである。また、地元では、5月中旬より生活支援定額給付金の支給が始まる予定であるため、若干の景気回復が見込める。ただ、全体の売上げについては前年並みとなる予想である。
		自動車販売店	現在の状況では、自動車のような高額商品はなかなか売れない。今後もこのような状況が続く、3か月後も同じ景気状況であると思われる。
		都市型ホテル	現在の状況から判断して、今後もこのような状況が続くと思う。
		タクシー運転手	アメリカの金融不安は、今後、しばらくは好転しないと思う。したがって、景気は変わらないと思う。
		タクシー運転手	今後の見通しが立たないので、変わらないと思う。
		タクシー運転手	「すでに家計の余裕はなくなってしまっている」と話す客の声が多い。また、「消費は必要最小限にしているが、それでも苦しい」との声もあり、良くなる要素は思い付かない。今後の景気は「やや悪くなる」という思いもあるが、これ以上に悪くなるとは、困るという気持ちがあるので、「変わらない」とする。
		ゴルフ場	3か月先までの予約状況より判断して、変わらないと思う。
		レジャー施設	雇用が不安定な状況が続くと思う。
	建築設計事務所	政治不信もあり、景気が回復するための「きっかけ」は見つかりそうもなく、当面このような見通しの立たない状況が続くと思う。ただ、この「きっかけ」が出てきて、景気が良い方向に転じたとしても、3か月で上向きにまでなるのかどうかまでは難しいと思う。雇用問題が深刻さを増せば、むしろ逆に景気は現状よりも更に悪くなることも考えられる。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	これから春に向かって、明るい見通しを想像するが、今よりは悪化することはないと思う。
		製造業（金属製品）	現在の景気動向から、今後3か月先までの判断は無理である。
製造業（一般機械器具）		悪いまま続くと思う。	
雇用	求人広告	顧客には個人店が多く、大手企業の景気が回復しない限り、3か月先の見通しが立たないので、現状のまま変わらないと判断する。	
	就職相談員	「4月から増産となりそうだ」という企業の声も聞くが、予想の域を出ないであろう。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	現状の景況感、株価やアメリカ経済の不透明感等が払拭されない限り続くと思われる。また、客の購買行動は、更なる低価格指向へと向かうものと考えられる。
		コンビニエンスストア	客の購買心理は、マスコミ報道や自分の周囲の景況感に大きく左右されるため、今後の見通し不透明な現状から判断すると、客の買い控えしようとする心理に大きな変化はなく、景気やや悪くなると思う。
		ガソリンスタンド	客との会話では、ごく一部で「景気が良い」という話を聞くが、ほとんどが「売上げ減」とのことである。
		和食食堂	客の中には、週休3日や自宅待機となってしまった人もおり、不況の第二波、第三波が近づいてきているのではないだろうか。
		和食食堂	地元の企業でも、リストラが始まっていることから、景気の上昇が望めず、客単価及び利益率は当分の間、減少傾向が続くのではないかと思います。また、現在の不況の波は今後も続くと思われるので、しばらくは今の状態で推移するのではないだろうか。
		タクシー運転手	地元企業においても、時間外勤務及び春闘での賃上げ交渉が難しくなっており、必要以上に節約している。
		ドライブイン	現在の不況状態が、解消されるとは思えず、景気回復は見込めない。
		ドライブイン	景気及び雇用状況の改善を見込むことは難しく、また、春闘においても定期昇給は覚束ない等の要因により消費マインドは更に冷え込むと思う。
		パチンコ店	今後も失業率の上昇が見込まれるため。
		理・美容店	ニュース等で報道されているように、世界中で不景気の声が聞かれており、視聴者は「節約しなくてはならない」という心理になり、あまりお金を使わない生活スタイルになると思う。
住宅販売会社	政府よりいくつかの経済対策が打ち出されたが、効果が出るのはまだ先であろう。		

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや悪く	企業	製造業（印刷・同関連業）	国会議員及び県議会議員の定員削減まで踏み込まないと、何のために市町村合併を行い、市町村議会議員の定数を削減したのかが無意味になってしまうのではないか。このままでは、世の中は変わらないと思う。議員には地域で信頼されている者又は人格者が就くべきであると考えているが、いつの時代からか、必ずしもそうではなくなってしまうように思う。このことが、政治不信の始まりの要因の1つではないかとも思う。
		運輸業（道路貨物運送業）	消費が伸び悩むと思う。
		金融業	円や株の価格の乱高下が今後の見通しを不透明なものにしている。上場企業の決算状況次第では更なる株価低迷も十分に予想される。さらに、富裕層及び一般層ともに将来の不安を抱えていることから、消費活動は一段と停滞すると見込まれ、それに同調するように企業も生産及び販売活動を縮小せざるを得ず、悪循環に陥るおそれがある。
		サービス業（コンサルタント業）	「4月以降の仕事が見えない」と話す事業所が多い。
	雇用	公共職業安定所	景気の先行きが不透明であり、景気回復には時間が掛かると思われる。
悪くなっている	家計	スーパー	雇用が減少し、失業率が増加しているという現状から考えて悪くなると思う。
		スーパー	製造業を中心に雇用情勢が悪くなっており、仕事が大幅に減少している。新聞、テレビ等のマスコミ報道にも明るさや安心感が全くといっていいほどなく、現在の経済の落ち込みが回復するのは難しいのではないかと懸念している。
		衣料品販売店	将来への明るい材料が出てこない限り、消費の回復は期待できない。
		農産物直売所	景気の低迷と政治不安により、なお一層悪くなると思う。
		和食レストラン、割烹	4月以降、更に悪くなるであろうという話が周囲で出ている。銀行がなかなかお金を貸してくれなくなるのではないかと懸念している。
		多目的ホール	個人客は、例年と比べて多少増加しているが、法人の会合利用での集客が少ないことから、悪くなると思う。
		旅行代理店	毎年、5月から6月に旅行企画の申し込みのある顧客の多くから「今年の旅行は見合わせる」というケースが顕著に出てきている。
		ゴルフ場	接待はもとより、コンペの予約も減少している。
		ゲームセンター	ゲーム機器メーカーの動きを見ても、良くなる傾向が感じられない。
	理・美容店	良くなるとは思えない。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	悪くなることはあっても良くなる要素は見当たらない。というのも、毎日のようにテレビ、新聞等のマスコミでは「不況だ」「100年に1度の不景気だ…」と、マイナスの報道がなされているので、消費者が財布のヒモをきつく締めるのは当然である。
		建設業	景気回復の兆しは全く見えない。雇用問題等に関するマスコミ報道も不景気を煽っているように感じる。政治の状況を見ても、皆、「景気回復」と口を揃えるが、選挙対策の面が大きいように思う。
	雇用	学校就業関係者	ハローワークの職員の話では、求人数は増加し続けており、この3月以降は、失業者が更に増加するであろうとのことであり、景気は悪くなると思う。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	商品価格の下落により利益が圧縮され、投資を控える傾向にある。また、政府が1人当たり20万円程度の規模で直接通貨を発行（「政府貨幣」）すれば、購買意欲の高揚し、デフレが抑制され、大きな経済効果が期待できるのではないかと思う。さらに、円安及び内需拡大を期待する。
	スーパー	客はチラシ等を見て、安い店を探して買い回りをしている。
	コンビニエンスストア	価格が安いというだけでは売れず、それに加えて品質も良くなければ売れなくなっている。また、客は消費に慎重ではあるものの、珍しい商品や目新しい商品は売れており、使うお金自体がないというわけではないと感じる。
	コンビニエンスストア	公共料金の支払いに関して、受付することのできない督促状や支払期限切れの納付書を差し出す客が増加している。また、パートやアルバイトの希望者が増加しており、専業主婦のパート希望者等が増加している。
	衣料品販売店	知り合いの建設会社、工務店が倒産した。今後、倒産は増加するであろう。
	自動車販売店	近所のスーパーには、夕方、日配の商品が値下がりする時間を待って入店する客が増加している。夜の遅い時間に、買い物をしている人も増加しているように思う。
	農産物直売所	駐車場の車の中で、おにぎりやカップ麺を食べている姿をよく見かけるようになった。
	小売業（酒類）	低価格の物販店、飲食店等は利用客が多い。
	小売業（水産物）	求人問合せが多い。特に、土・日のみの勤務希望者が増加した。また、パート・アルバイト社員からは、出勤日数や勤務時間増の要望する者が多くなり、正社員採用への希望者も増加している。
	小売業（靴製品）	客の買い物についての動向を見ると、必要な商品であれば、低～中価格で約20km、高価なブランド品等では100km以上あっても平気で車で買いに出掛けている。当社は常陸太田市に1店舗と常陸大宮市に1店舗あるが、客は、必要な商品がある場合には、この2店舗間（約11km）を車で行き来して商品を探している。
	レストラン	県内について見ると、北部に向えば向かうほど、景気が良くないように思う。県全体、とりわけ県北地域に目を向けた明るいニュース欲しいと願っている。
	居酒屋	宴会が少ない。
	スナック	近隣の工場で、週休4日にしてところがあるという話をよく聞くようになった。また、パートを辞めさせられる人も出てきているそうである。
	和食食堂	閉店する店が目立つことの影響か、当店の客層が広がってきたような気がする。今までは、中年層の客が圧倒的に多かったが、若年層の客が増えてきた。
	観光型ホテル	アメリカ発の不景気が東京にも及んだと思ったとたん、地方へもあつという間に波及している。こんな不景気は今まで経験したことがない。
	観光型ホテル	景気の回復を望むのみである。
	観光型ホテル	客等から「生活支援定額給付金を貰っても、貯蓄に回す」という話をよく耳にする。景気対策としては、もっと別の方法があったのではないか。
	タクシー運転手	地元の企業では、使用している公用車の台数を減らすことになったようである。また、今までも交通費等の経費を減らしてきたが、更に減らすようで、極力、タクシーは使わず、電車・バスの利用を促進しているようである。
	ドライブイン	例年の春に比べて、商品の動きも鈍いように思う。
	ゴルフ場	景気に関してテレビ等ニュースで報道されていることが、身近なところで現実起きていることを知り、その影響がもたらされる速度に不安を感じている。また、飲食業や運送業等が置かれている景気の状態はかなり冷え込んでおり、同じサービス業であっても、業界内に景気状況に温度差があることに戸惑いを感じる。
ゴルフ場	国会開催中、雇用問題が最優先課題とされ、税収対策と合わせて、クローズアップされている。また、経営の基本を再構築して欲しいとの声が大きくなっている。さらに、ゴルフ場においては、料金の設定が重要な方策の1つになっている。	
レジャー施設	2月の中旬の週末に4月頃の陽気になった日があったが、その日の来場者数は2月としては記録的な大入りとなった。この日だけは不景気であることを感じず嬉しい悲鳴となったが、結局、その日だけであった。	
理・美容店	近隣の町工場や更には大手企業からも「一時帰休」という言葉を耳にするようになってきた。特に、主婦層の顧客はかなり敏感になっている。	
理・美容店	地元で大型店舗ヨークベニマルが開店し、開店セールが実施されたが、その時は国道6号線が大渋滞となった。このことから、安売りの時の客の購買力はまだまだあると思うが、同じ地域内のライバル店による客の取り合いになっていると思う。	
住宅販売会社	消費に対して非常に厳しい客が増加している。	

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業	林業関係者	平成20年度から実施している「森林湖沼環境税」の財源を活用し、荒廃した森林が整備され、森林の持つ公益的機能が発揮されることを期待したい。
	水産業関係者	現在、ヒラメ、アンコウ等の高級魚の価格が低迷している。この傾向は陸上の産業界の景気に左右されている。また、漁業用燃油の価格が、今後、どのようにに変化するのかが慎重に見守っている。燃油価格が占める割合が総水揚げの30%以上となってしまうと経営が成り立たなくなる。陸上の産業界の早期景気回復及び燃油の価格安定を、強く望むものである。
	製造業（食料品）	周囲では、日用品の購入に対しても、節約の動きが大きくなっているように思われる。
	製造業（電気機械器具）	当社のグループ会社や関連会社の中には、受注の激減により仕事が無くなり、一時帰休（週4日の休業）を実施しているところもある。そこに勤める従業員は、本業だけでは収入減となるので、他にアルバイト等の副業を模索しているような状況である。
	製造業（電気機械器具）	近隣の企業の大半が週2～3日程度の稼働となっている。この危機を乗り越えるためには、高付加価値の商品を提供し続けることが必要であり、それができる企業が生き残るものと考えている。
	製造業（電気機械器具）	自動車関連の企業は、雇用や設備過剰の問題等により更に厳しい状況にあると聞いている。また、最近、道路の補修工事が多い。この前、ある大型店舗に買物に出掛けた時も工事渋滞に巻き込まれた。渋滞を抜けて、やっと目的の店舗に着いたが、その店舗は撤退したらしく閑散としていた。仕方なく食事でもと思い飲食店を探したが、「安くて美味しいお店」は、席を待つ客で混雑していた。
	製造業（電気機械器具）	近隣の企業では週休日を増やしたところが多くあり、帰社時間帯の道路の渋滞が緩和された。
	建設業	地元の商業事業所等の多くでは、生活支援定額給付金が早く給付されて、受給者が地元で使用することを望んでいる。
	金融業	地元の飲食店街をみると、夜間はほとんど人通りのない日もあり、飲食業は大幅に売上げが減少している。
	不動産業	景気の回復のためには、個人の消費拡大はもとより、住宅の所得及び着工が不可欠であると感じる。金融の柔軟な対応を希望したい。
雇用	人材派遣業	チラシ広告を見て、日曜日にスーパーでまとめ買いをしているが、そこだけは大変な賑わいを見せている。商店街の通りは全く活気が見られない。なお、これからは食品関係の企業が伸びていくように思う。
	求人広告	消費者個人の出費が減少している状況の中、今後の景気回復は当面見込めないだろうと思う。こういう時だからこそ、もっと遊び、もっとお金を使うべきではないかと思うが、お金が回っていない。飲食店ほかサービス業の方々が気の毒である。
	求人開拓員	無料配布の求人情報誌を発行し、当所に持ち込みをしていた会社が、持ち込みに来なくなった。求人の掲載を希望する事業所が少なくなり、収入が減少してきているため、経費の削減を行っているとのことである。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	出入りの運送業者の運転手のほとんどが、「とにかく荷物が少なくなった」と口を揃えたように話している。中には、「前年の6割程度しか荷物が無い」と話す運送業者もある。
	商店街代表者	個人消費が落ち込んでいる現状を打破するため、生活支援定額給付金が支給される5月頃に、商店街で利用できるプレミアム商品券の発売を予定しており、現在、取り組んでいるところである。
	百貨店、総合スーパー	衝動買い、まとめ買いをする客が減少している一方で、一部の富裕層は高額な商品を購入している。比率で見れば、圧倒的に前者の方が多いが、二極化してきているのであろうか。
	スーパー	客の関心が、高品質から低価格に移行している。一流メーカー品よりも安い二流・三流メーカー品、又は在庫調整品等のいわゆるアウトレット品という具合である。
	スーパー	県庁のすぐそばに、大きなショッピングセンターがオープンし、競争が激しくなるだろう。
	スーパー	お米の売上げが伸びている。いわゆる「内食」が増えてきているのであろうか。
	家電販売店	物も人も動かない。
	専門スーパー	パート・アルバイトの募集に対する問合せが多くなっている。従来であれば、定年後の方の問合せが主であったが、最近では50歳以下の方からの問合せが多い。
	レストラン	昼間の女性客の利用についてはそれほど減少してはいないが、夜間の利用は大幅に減少している。
	ファミリーレストラン	どんな大手のレストランチェーンでも、閉店や転換が多く見られ、生き残るために切磋琢磨している。それでも厳しい状態だと感じている。
	割烹料理店	家計は苦しいが、子供のゲームソフト等遊びに関して使うお金は惜しんでいないように思う。
	都市型ホテル	駅前のデパートが3月末で閉店することであり、景気の悪化が伝わってくるようである。
	タクシー運転手	多くの方がリストラ等の不安感を抱えており、現状は暗い。
	タクシー運転手	同業他社を見ると、他業界からの新人が多いように思われる。
	タクシー運転手	駅のホームに電車が入ってきても、以前ほどの人数が降りてくるのがなくなった。また、ファミリーレストランの客も少なく、景気の悪さを感じる。
	タクシー運転手	国の政策によってタクシー台数を制限する必要があると思う。このままでは、生活できない状態に陥ってしまう。
	観光名所	外食が減り内食が増えたため、家庭で使う食器の需要が増えているという話を聞いた。
	ゴルフ場	様々な景気回復策が打ち出されているようであるが、客の「遊び」、特にゴルフプレーに掛かる費用に対する感覚は非常に厳しいものがあるように思う。ゴルフ等のレジャー産業の回復には時間が掛かるように推測する。
	パチンコ店	一見、落ち着いているように見えるが、外食産業等を見ても、来店客数の減少を感じる事が多々ある。
	レジャー施設	来場者数は減少しているにもかかわらず、みやげ品の売上げは伸びる傾向が続いている。その要因としては、県外からの来場者が増加していることが考えられる。
理・美容店	個人店は、皆、静かな店となっている。「仕方ない」という言葉しかない。	
建築設計事務所	世界的な大不況ではあるが、マスコミ等が必要以上にそれを煽っているように思う。そのため、消費者の財布のヒモは余計に堅くなっているのではないかと。特に、建築関係は金額が大きいので、その打撃を直接的に受けているように思う。	
住宅販売会社	客は、本当に「必要なもの」に対しての消費意欲はあるようであるが、「必要なもの」を選別する基準が厳しくなっていると感じられる。	
企業	農業関係者	耕作を放棄する小規模農家が増加している。
	製造業(食料品)	近隣にある複数のスーパーマーケット間の価格値下げ競争が激しくなっている。
	製造業(金属製品)	商業施設の閉店が見受けられる。製造業だけでなく、様々な業種において不況であることを実感している。
	製造業(一般機械器具)	仕事がないためか、デパート、商店、自動車販売店等全てにおいて元気がない。このままでは、日本の国がおかしくなるのではないかと。
	製造業(精密機械器具)	1年後の売上げにつながる開発依頼が数件あり、それに関わる部署は繁忙している。社内において、部署ごとに仕事量のばらつきが出始めているため、近日中に対策を実施する予定である。
	建設業	大型物件(大プロジェクト)が少ない。
	運輸業(道路貨物運送業)	当社の倉庫部門では、単価の安い大型案件が出ているようである。
	情報通信業(情報サービス業)	先日、訪問した企業で雑談をしていた折り、その企業の若手社員が「給与の減額はありましたが、リストラはないそうです。」と比較的明るい表情で話していた。社員にとっても、給与減額は厳しいと思われるが、現在の経済状況においては、収入の減少よりも職を確保できるということが、大きな安心感につながっていると感じた。早く景気が回復し、この社員の本当に明るい表情を見てみたいと思った。
サービス業(コンサルタント業)	新聞、タウン誌、折込みチラシ等の広告の量が減少しているように感じる。今までは、広告を掲載したい時に、他社と競争することが頻繁にあったが、最近ではスムーズに掲載できるようになった。景気の後退で各社とも宣伝広告費の削減や広告媒体の見直しを進めているのではないだろうか。	

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
雇用	人材派遣業	同業他社において、営業所の閉鎖・統廃合を始めたところがある。
	公共職業安定所	水戸駅北口の大型商業施設「リヴィン水戸店」が、3月末日で店舗閉鎖することが決定している。
	学校就業関係者	3月末で水戸駅前の「リヴィン水戸店」が閉店するとの報道があった。このことにより、水戸駅前の一等地に大きな空ビルが生じることになる。旧ダイエー水戸店のあったビルも一部利用されているだけのようであり、駅前一体の商店街の活性化について、中期的視点からの検討が必要であるように思う。
	就職相談員	安定した企業又は正社員の希望者が多い。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	これまではあまりなかったことであるが、家庭の財布を握っている主婦層の買い控えが目立つようになっている。衣料品の購入が減り、また、外食を減らし、自宅で食事を摂る傾向が多く見られる。また、地元では大型のドラッグストア店による安売り販売の影響等もあり、小規模の薬店が、転業又は廃業の状況にある。
	商店街代表者	女性客をターゲットにした個人経営のある洋風レストランは、存在感のある店作りをしており、客足も伸ばしている。また、閉店したガソリンスタンドが中古車展示場となり、時代を感じている。
	商店街代表者	「正社員として採用されたが、減産のため、休業日多い」等の話を聞く。将来に明るい兆しが見えない。
	スーパー	テレビ等のマスコミ報道の影響からか、客は商品の宣伝等の情報にあまり左右されずに、その商品自体の価値を見極めて購入している。そのため、品切れや欠品する商品がなくなった。
	スーパー	ショッピングセンター全体でイベントを開催した。今までであれば、イベント終了後、店内で買物をする客が多かったが、買物をせずにそのまま帰る人が多かった。
	コンビニエンスストア	他の業種と同様に、コンビニエンスストアにおいても、値下げキャンペーンを連続的に実施して、客の購買意欲の刺激に努めているが、このような各業界の販売促進策に対する客の反応は鈍くなってきている。
	コンビニエンスストア	セール等の値引きに対する客の反応は良い。
	家電販売店	最近では、特に高額商品については、1度の来店で購入が決定する割合が低下している。また、競合他店を3店以上見て回ってから購入決定する客が多くなっている。
	自動車販売店	地元の中小企業を見ると、従業員の採用者数が少なくなっている。
	農産物直売所	客との会話で「いつまでたっても寒いですね。うちの家計と一緒にだわ。」という声が多い。なんとかならないものだろうか。
	衣料品販売店	短時間のアルバイト募集であっても、驚くほどの問い合わせがある。雇用に関しては、何も改善されていないように思う。
	洋食食堂	ランチでは単価の低い商品の注文が多い。一気に客が来店し、引ける時間も早くなった。客はお金を使えないのではなく、使うのを控えているように思う。
	割烹料理店	近隣のスーパーでレジ袋が有料化され、マイバック持参客が増加しているが、これは、エコのためもあるが、それ以上にレジ袋代の節約するためであると思う。
	日本料理店	飲食店の中でも弁当店、焼き鳥店の景気は良いという話を聞いた。ランチを弁当で済ませる人や自宅で飲酒をする人が増加しているため、テイクアウトの需要が増加しているとのことである。消費者は、全体的に飲食費を抑制しているように思う。
	観光型ホテル	客単価が多少低下している。
	タクシー運転手	ハローワークを毎日のように訪れているある30歳代の男性が、ある会社に雇用の申込みをしたところ、会社からは「雇ってあげたいが、元請けから仕事ももらえない状況であるため、雇用はできない。」と回答されたとのことである。
	タクシー運転手	仕事量及び売上げが減少し、手取りも減少したが、この地域は、「タクシー強盗」の心配があまりない分だけ、まだましという感じである。また、量販店の駐車場を見ると、セール実施期間中の駐車は多いが、その期間を過ぎると極端に少なくなる。
	タクシー運転手	景気の悪化は、政治が悪いからではないか。
	ドライブイン	例年であれば、年末年始は駐車場が満車となるが、今年は満車とならず、賑わいに欠けた。
	観光名所	熟年者で健康な方の多くは、好みに応じて自由に行動しているように思う。一方で、仕事携わっている年齢層の方の多くは、景気の現状等を考えて、慎重に行動しているように思う。生活にもう少しゆとりが出てくれば、観光やレジャーへの関心も上昇すると思われるが、まだまだの状況である。
パチンコ店	外出を控えたり、禁酒禁煙考えている人が増加している。	
理・美容店	大不況であるため、客や周囲の人達も、かなり戸惑っている様子である。	
クリーニング店	周囲では、週休3日としたり、倒産する企業が出てきている。また、農家では、肥料や資材が値上がっている一方で、商品価格は安く、利益が減少している。飲食店も客数が減少している。	
企業	農業関係者	景気の良い話がないかと探してみても、相変わらずの状況である。
	製造業（食料品）	イベントを開催しているところもあるが、人が集まらない、金も動かない。
	製造業（食料品）	近隣の状況を見ると、今年に入ってから外国人の労働者が少なくなったように思う。また、特に、金属加工業の業績の悪化が大きいように感じている。
	製造業（化学工業）	生産の休止や低稼働により、給与の減額が現実味を帯びてきている。他社では既に給与削減を決定したという話も聞くようになっており、消費の低迷による生産の休止状態が長期化することを懸念している。
製造業（鉄鋼業）	家電量販店に出向いたが、客が少なかった。	

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業	建設業	消費が伸びない。雇用不安がある。
	運輸業（道路貨物運送業）	どの運転手に話を聞いても、仕事がなく暇であるとのことである。したがって、10日間予定のまとまった仕事が入っても、4日間で終了してしまう。困った状況である。
	保険業	株価が7,200円まで下がった。
	不動産業	異動により賃貸物件を探す人が増加している。家賃7万円前後の物件を希望する客が多いが、その方達は恵まれていると思う。格差社会であることを感じている。
	サービス業	展示会等で経費を削減するため、コンパニオンの人数やみやげ品を減少させているようである。また、高速道路の通行車両も減少している。
雇用	人材派遣業	景気の悪化に連動するかのように治安が悪化している。当地でも自家用車の盗難や小型クレーンを持つ貨物自動車の盗難が発生している。
	学校就業関係者	卒業生の話によると、残業がなくなるそうである。
	求人開拓員	鹿島地区のコンビナート内の企業では、例年、今の時期から定期点検や修理が始まるが、今年は、各企業において大幅に予算が削減されているとのことであり、工事関連業者は来期の収支予測が全くできないとのことである。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	可処分所得の多い中高年齢層が、将来への不安から消費意欲を失っているように思う。
	スーパー	プライベートブランド商品の売上げが伸びている。ブランド名にこだわらない価格指向の客が増加している。
	スーパー	レジ袋の有料化を実施したが、それにより客の購入状況が変化した。
	家電販売店	特に、大型商品と呼ばれる商品の成約率が、低下傾向にある。
	農産物直売所	近隣のショッピングセンターに入っているテナントの中には、売上げが思わしくないため、派遣切り等人員削減が行われているところもある。
	ガソリンスタンド	中小企業の経営者の多くは、12月は何とか乗り切ったが、3月決算の時期を向かえて、これをどう乗り切るかということに頭を抱えているという情報が飛び交っている。
	洋食食堂	当店のすぐ前の道路で電柱埋設工事が行われており、その影響でかなり客足が遠のいてしまった。早く完成して欲しいものである。
	洋食食堂	近隣の自営業は皆勢いがいい。昨年までは、月に1回くらいの間隔で、高級料理店で勉強会を兼ねた食事会を実施していたが、今年は、食事会は後回しとなっている。
	寿司店	景気の良い話はどこに行っても聞くことができない。3月10日にガソリンスタンドで給油したとき、店員と「この先のどうなっていくのか」等と話した。また、銀行で記帳する際、知人に会ったので、話掛けたが、「お先真っ暗で嫌になる」と話していた。笑ってはいられない話があるが、仕事柄、祝儀・不祝儀の際に当店を利用してもらえよう努めている。
	都市型ホテル	県南地域では、新しいショッピングセンターがオープンしたこと等により、交通量が増加している。人の動きがあれば、業種によっては多少景気が上向きになるところもあるのではないかと。
	旅行代理店	近隣の企業においてもリストラ、賃金カット等が行われている。当分、景気は良くならないと思う。
	旅行代理店	近隣の工場でも休業日が増加し、減給の話聞くようになった。
	タクシー運転手	乗客からは景気が良い話は聞こえてこない。
	タクシー運転手	消費者の財布のヒモが固くなっている。
	タクシー運転手	ニュースを観ていても、実効性のある景気対策の話がない。
	タクシー運転手	客との会話では、「人員削減により仕事が増えたにもかかわらず、残業代はカットされ、サービス残業ばかりである」という話をよく聞く。
	ゴルフ場	一部の景気の良い業種の顧客でも、取引先等との関係上、遠慮しているような節がある。
パチンコ店	来店者は1円パチンコに移行している。	
レジャー施設	現在、開発工事を中断しているので、客の流れが悪くなっている。	
雇用	雇用相談員	これまで人員不足と言われていたIT企業においても、ここにきて取引先企業の仕事量の減少により、経営が悪化し、雇用維持に苦心していることである。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	年金生活者でも高い収入があり、不況にめげず旅行に出掛けている方々が周囲には多くいる。そういった方々にたくさんの消費をしていただきたいと思う。
	スーパー	客の低価格指向は、低価格戦略や割引を実施している当社の系列店に客が流入しているという事実には顕著に出ている。
	スーパー	先行きが不安な話が多い。また、客等から政治不信についての話をよく聞くようになった。「一億総評論家」と言われるが、それもよし悪しで、一人一人が発言に責任を持つ必要があるのではないかと思う。
	コンビニエンスストア	客が購入する商品の価格帯が低い方へ向いているが、そういった中で、当社のプライベートブランド商品は、安くてもその価値が認知され、人気商品となっている。
	衣料品販売店	外国人の客の来店数が減少している。地元の企業でリストラがあり、外国人従業員がいなくなったとのことである。
	自動車販売店	スーパーやデパートは業績が悪いとはいえ、客はそれなりに入っているように見える。我々の自動車業界では、各社、生き残りを賭けて、修理等のサービス部門に力を注いでいる。
	農産物直売所	企業によっては、金曜日から月曜日まで休業というところも出ているようである。確かに、金曜日の朝などの渋滞がなくなっているように思う。
	専門スーパー	物を長く使う傾向が、高まってきている感がある。物の補修剤などの動向が良い。
	ガソリンスタンド	軽自動車の客が多くなった。また、新車に乗り換える人が少ない。
	和食食堂	食料品等の物価は下がっているが、マスコミ等の悲観的な報道により、客はまだまだ財布のヒモを緩めない様子である。
	都市型ホテル	周囲の企業を見ると、今年になってから、週3～4日の休業としているところもあり、従業員を削減しているという話を聞くようになった。
	旅行代理店	近隣の大手企業や下請け工場では、社員の一時帰休や正社員を対象とした希望退職者の募集等の話も出てきている。
	タクシー運転手	安価な料金で利用者の希望の乗車場所や時間帯等の要望に応える「デマンドタクシー」の導入について、地元で検討されている。実施されることとなればその影響は大きい。
	タクシー運転手	金曜日・土曜日の夜間に限ってはあがるが、スナック等の飲食店からの送迎の需要が多い時もあり、その時ばかりは不景気であることを疑いたくなる。
	タクシー運転手	ある乗客から、「今まで崖っぷちで踏みとどまっていたが、徐々に足元が崩れ始めてきている。中にはすでに落ちてしまったが、途中にあった枝に掴まりかろうじて耐えている状態で、自力では這い上がるのはとても無理だ」という例え話を聞いた。また、実際に「家計はかなり苦しい」という客の声は多い。ビジネス客からも「それは家計に限らず、会社も同様であり、倒産の一手手前だよ」という声もあった。
	ドライブイン	テレビや新聞等のマスコミによる不況報道が消費者の不安を煽り、買い控えにつながっているのではないかと思う。
	ドライブイン	昨年末から、食の安全に対する客の関心が高くなってきているが、今年に入り価格に対する関心も高くなってきている。
	ゲームセンター	小規模の店舗が倒産したり、大型ショッピングモール内のテナントも入れ替わりが多くなっているように見受けられる。
	レジャー施設	商品が余ってきている。定価で商品を購入することに抵抗を感じている客が増えたように思う。
	理・美容店	近隣の工業団地から撤退する企業が出始めた。
	理・美容店	客との会話のほとんどが、不景気に関する話である。例えば、「工場が閉鎖された」、「残業がなくなった」等である。
	建築設計事務所	ここのところ、電力会社によるオール電化の生活をPRが盛んである。電力会社及びその協力会社が「オール電化フェア」等を開催しているが、来場しては、高齢者層ばかりであるように見受けられる。設備投資ができるのは高齢者層で、若年層はそれどころではないというのが現実なのだろうか。
	企業	農業関係者
製造業（食料品）		近隣県にある大手自動車メーカーの工場で大規模な解雇が始まったと聞いた。自動車産業からの転職組が数多く面接に来るようになった。
製造業（食料品）		近隣の状況を見ると、最近は、残業が少なくなったり、週に3日以上休業しているという企業もある。また、生産工場の下負けをしている個人企業では、仕事がない状態のところもある。
	製造業（印刷・同関連業）	政治と経済は切っても切れないものである。政治家もマスコミも行政も、国民、市民も、将来的に可能であろうということがあれば、どんどん言葉に出し、また態度に示して、明るく・明るく、楽しく・楽しく、何事についてもプラス志向で行ってもらいたい。そうすれば必ずや近い将来、景気も回復基調になっていくと思うし、なって欲しいと思う。そうすれば、皆に笑顔も戻る。皆で頑張ろう。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業	製造業（印刷・同関連業）	地元の工業団地における企業の撤退や、生産規模の縮小により、地元自治体の税収も減少しているようである。
	製造業（化学工業）	自動車関連産業等は大きな回復は見込めないと思う。
	製造業（窯業・土石製品）	新聞・テレビ等の景気の悪さに関する過剰ともいえるマスコミ報道の影響等により、消費者は金を使わなくなっている、「無駄使いはしない方がいいが、必要な物は買って欲しい。」そう考えている人は多いのではないだろうか。
	製造業（窯業・土石製品）	当社が入会している石材協同組合の組合員数が、最盛期の4分の1にまで減少した。その主な原因としては、廃業や増加や毎月支払う組合員費を削減し、少しでも経費を抑えたいとする事業所の増加等であるが、組合員費を相当額滞納して、脱退した事業所も少なからずあるというのが現状である。貧しくなると、精神の働きも鈍くなるという「貧すれば鈍する」ということわざが納得できる今日この頃である。
	製造業（金属製品）	同業の経営者の言葉を借りれば、「壊滅的！」な景気状況である。
	製造業（一般機械器具）	会社によっては見積り依頼が多いところもあるが、受注しても納期が非常に短い。
	建設業	高齢者は将来への不安から消費を抑制しており、商店街は「シャッター通り」となっており、建設業や設計業において廃業したところもある。
	金融業	大規模工場の誘致計画の実施が延期となり、税収や雇用の増加、近隣アパート等の入居需要、新築計画等の大きな期待が外れてしまった。
雇用	人材派遣業	顧客である製造業から良い話を聞くことが全くない。我々、人材派遣業の仕事が心配である。
	求人広告	「倒産しそうだ」と言われることが多くなった。週休3日としたところもある。また、運送会社では、燃料が高騰したときよりも現在の方が苦しい状況にあり、「収入がないので、運営ができない」と話していた。
	学校就業関係者	昨年のはじめは、授業で使用する鉄鋼材料の価格上昇が著しかったが、昨年10月以降はほぼ横這いとなり、今年に入ってからようやく価格が低下してきた。
	就職相談員	生活支援定額給付金が、景気に反映することに望みを託したい。